

月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol. 126

THE LEGEND OF HEROES
黎の軌跡
クロノキセキ

メインストーリー
続々更新中！
『英雄伝説
暁の軌跡』

スウィンと
ナーディアの前に
倒したはずの男が
立ちはだかる？
創の軌跡
THE
MISERABLE
SINNERS

『軌跡』シリーズ
始まりの物語を振り返る
英雄伝説 空の軌跡

夏だ！　海だ！　臨海学校だ！
も～っと集まれ！
ファルコム学園

辛くも《輝く環》にたどり着いた
一行の目の前に広がるものとは
英雄伝説 空の軌跡SC
～絆の在り処～

ファルコムニュース

《不動》、動く！　さらにまだまだ新キャラクターも登場！

英雄伝説 黎の軌跡



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS



「ちょいとは肩の力を抜きな――
せっかくの美人が台無しだぞ？」

ジン・ヴァセック

（CV：稲田徹） Zin Vathek

年齢：36 歳　武器：籠手＆具足

《不動》の渾名を持つ、カルバード遊撃士協会を束ねる準Ｓ級遊撃士。身の丈２アージュ近くの東方系の巨漢で、東方三大拳法の一つ《泰斗流》を修める達人でもある。
「リベールの異変」「Ｄ∴Ｇ教団事件」など数多くの大事件解決に貢献し、２年前の世界大戦では諸国連合軍の作戦の一翼を担当。早期停戦へと導いたことがＳ級への推薦に繋がったが、一旦辞退し準Ｓ級に留まっている。
《泰斗流》の年下の姉弟子がＣＩＤ（中央情報省）の要職にあり、兄弟子が結社《身喰らう蛇》に所属したまま謎の沈黙を続けるなど同門間での緊張関係が続く一方、有望株である遊撃士の後輩・エレインには大きな期待を寄せており、頑ななところもある彼女の成長を見守っている。







ヴァルター・クロン

Walter Kron　（CV：吉水孝宏）

年齢：37 歳

結社《身喰らう蛇》に所属する執行者 No.Ⅷ で、暴力的な気配を纏う戦闘狂。《痩せ狼》の異名を持つ。
共和国三大拳法の１つ《泰斗流》の使い手リュウガ・ロウランの一番弟子でありジンやキリカにとっては兄弟子にあたる存在だった。
門下生の頃から既に武術の腕は常人の域を超えていたが、それゆえに "力" そのものに魅せられてしまい、師であるリュウガを殺め、人を活かす "活人拳" ではなく人の命を奪う "殺人拳" を磨く道へと進んでしまった。
現在は共和国内でとある若者を追跡しているらしく、ヴァンたち《裏解決屋（スプリガン）》とも接触することになるが……。



「――つれねえことを言うなよ。
アークライド先生には前の依頼で世話になってなァ。」









ジンほか共和国に
馴染み深いキャラクターが続々と登場！
さらに気になる新キャラクターたちも？

タイトル：英雄伝説 黎の軌跡
発売日：2021 年９月 30 日　**ジャンル**：ストーリー RPG
対応機種：PlayStation4　**プレイ人数**：1人
小売価格：［通常版］7,800 円（税抜）
[SPRIGGAN Edition] 9,800 円（税抜）
［ダウンロード版］7,500 円（税抜）
CERO レーティング：C

カルバード共和国を舞台とした『軌跡』シリーズ最新作『黎の軌跡』。発売までいよいよ２ヶ月と迫った今回は、共和国に馴染み深い旧作のキャラクターたちが続々と登場！　さらに、謎多き新キャラクターも一挙解禁となった！

フィー・クラウゼル

（CV：金元寿子） *Fie Claussell*

年齢：20 歳　武器：双銃剣



「一応、ギルドの規約に則って動いたし国際条約にも違反してない――ギリだけど。」

《妖精（シルフィード）》の異名を持つ、帝国遊撃士協会所属のＢ級遊撃士。
共和国内で増加を続ける大小様々な案件に対し、人手不足を解消するための助っ人として帝国から来訪することとなった。
幼少期に猟兵団《西風の旅団》で猟兵として生きてきた過去があり、ずば抜けた身体能力と高度な戦闘技術を備えている。
クールな雰囲気を纏っているが意外と気さくな一面もあり、優等生タイプの先輩遊撃士エレインにしれっと冗談を飛ばすことも。



シズナ・レム・ミスルギ

Shizuna Rem Misurugi　（CV：内田真礼）

年齢：23 歳　武器：漆黒の太刀

荒廃する大陸東部のどこかに本拠を置く最強の侍衆《斑鳩（いかるが）》の副長。
玲瓏かつ天衣無縫な佇まいで、《白銀（しろがね）の剣聖》の異名を持つ《黒神一刀流（こくしんいっとうりゅう）》の達人。
普段から最新式の強化スーツを着用し、東方に伝わる"宝刀"である、漆黒の大太刀を得物として振るう。
どこかあどけなさの残る顔立ちをしているが、強者と刃を交える際には剣聖の名に相応しい凛とした表情を垣間見せる。
その太刀筋は《剣仙》ユン・カーファイが興した東方剣術の集大成、《八葉一刀流》を思い起こさせるが……。

「いや――退けないな。今なら見える気がするんだ。零の境地、そのさらに先が……」





ルクレツィア・イスレ

（CV：植田佳奈） *Lucrezia Isselee*

年齢：29 歳



「うふふ……今時の若い子には、どんな"おひねり"が悦んでもらえるやろねぇ？」

《黄金蝶》の異名を持つ、結社《身喰らう蛇》の執行者No.III。
常に素顔をベールで隠しているため表情が伺えない上、はんなりとした雅な言葉遣いが特徴で、腹の内を探りきれない独特の雰囲気を持つ。
かつては《月光木馬團》と呼ばれる暗殺組織に所属していたが、結社との抗争に敗れ、軍門に下ることとなった。
異形にして長大、バターナイフのような形をした《ダスクグレイプ》を振るい、空間ごと抉り取ってしまう凄まじい攻撃を繰り出す。



メア

Mare　（CV：長縄まりあ）

年齢：？？

ヴァンの戦術オーブメント《Xipa（ザイファ）》にインストールされている特別製のホロウコア（支援用ＡＩ）。
かなり自己主張の激しいタイプだが、ＡＩとして設定されたパーソナリティであり、"自由意志"は存在しない。
普段は他のホロウコア同様、音声ガイドによるサポートを行っているがヴァンの身の回りで"何か"が起こることでホログラムのようなアバターとして現実世界に顕現する。
その際はＡＩにはあり得ない"意志"を自ら示し、ヴァンの全身を"悪夢を纏った"姿――壮絶な殲滅力を振るう《魔装鬼（グレンデル）》へと変貌させる。



「アタシに任せて！　シャード解放――悪夢を纏え（テイク・ザ・グレンデル）！」



『黎の軌跡』の気になるキーワード&舞台設定をチェック！

斑鳩（いかるが） *Ikaruga*

不毛の地となりつつある大陸東部の何処かに本拠を置く、謎めいた侍衆。
最新鋭の武装を使用し、大陸極東で受け継がれてきた“太刀”を扱う達人を多く抱え､変幻自在の戦闘術･情報収集に長けた“忍び”と呼ばれる隠密部隊を擁するなどその戦闘力は大陸東部において“最強”とささやかれている。
彼らが使う忍びの技は「朧月流」、太刀の技は「黒神一刀流（こくしんいっとうりゅう）」の名を冠しているがその詳細については不明な点も多く、源流も明らかになっていない。

クレイユ村 *Creil Village*

カルバード北西、レミフェリアやオレド自治州に通じる田園地帯に位置する人口 1,000 人ほどの農村。
周辺には美しい田園風景が広がり、北西には遥か遠くのノルド東部へと至る丘陵や山脈が望めるため、首都圏から保養に訪れる者も少なくない。
国境に近いことから猟兵団が食料調達や休息で立ち寄ることもあるが、各方面への宿場町として機能している村で揉め事を起こすのはどの団も禁じているらしく、その点については住民もあまり目くじらを立てていないという。





龍來（ロンライ） *Ronlai Town*

カルバード最東端、天山連峰とイシュガル山脈の狭間に位置する人口約２万の地方小都市。
古くから大陸東方への玄関口として行商人が往来していたが大陸東部の不毛化に伴い年々往来が減少。
しかし、周辺では茶葉の栽培が盛んで、温泉が湧き出ることから保養地・観光地として一定の人気を維持している。
町並みは東方様式だが、ラングポートの東方人街のような派手さはなく､わびさびも感じさせる鄙（ひな）びた雰囲気。
月華流・崑崙流・泰斗流の東方三大拳法を修める者が修練のために訪れる場所としても知られている。



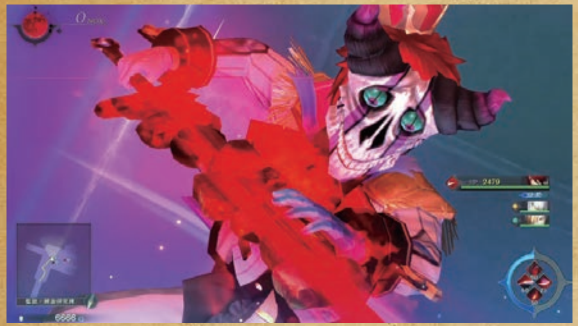


Switch版『イースIX』は DLC全部入りの 豪華版！



2019年にPlayStation4で発売された『イース』シリーズ最新作『イースIX -Monstrum NOX-』のNintendo Switch版が9月9日に発売！ Nintendo Switch版はPlayStation4版で個別に販売・限定配布されていたDLCの衣装やアタッチアイテムがすべて収録された豪華版となっているぞ！ さらに豪華な店舗特典なども公開中なので、詳しくは公式ホームページをチェック！









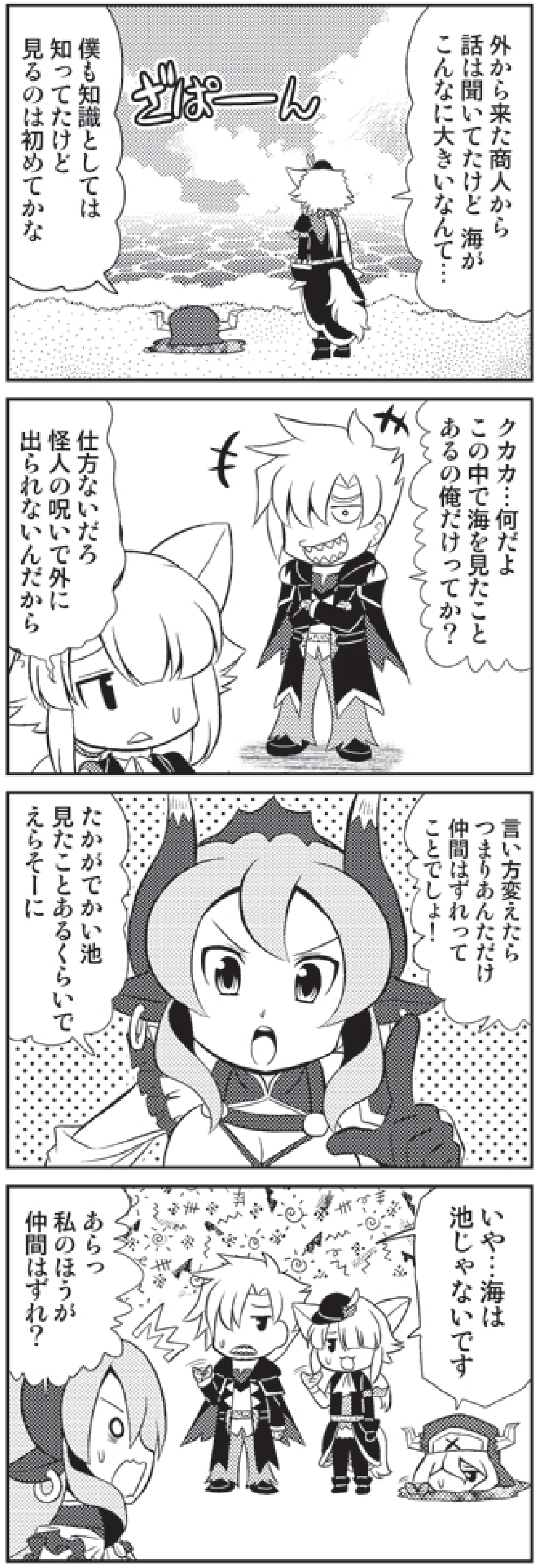
タイトル：イース IX -Monstrum NOX-
発売日：2021 年 9 月 9 日
ジャンル：アクション RPG
対応機種：Nintendo Switch　**プレイ人数**：1人
小売価格：［パッケージ版 / ダウンロード版］6,980 円（税抜）/7,678 円（税込）
CERO レーティング：B

公式 HP：https://nippon1.jp/consumer/ys9/

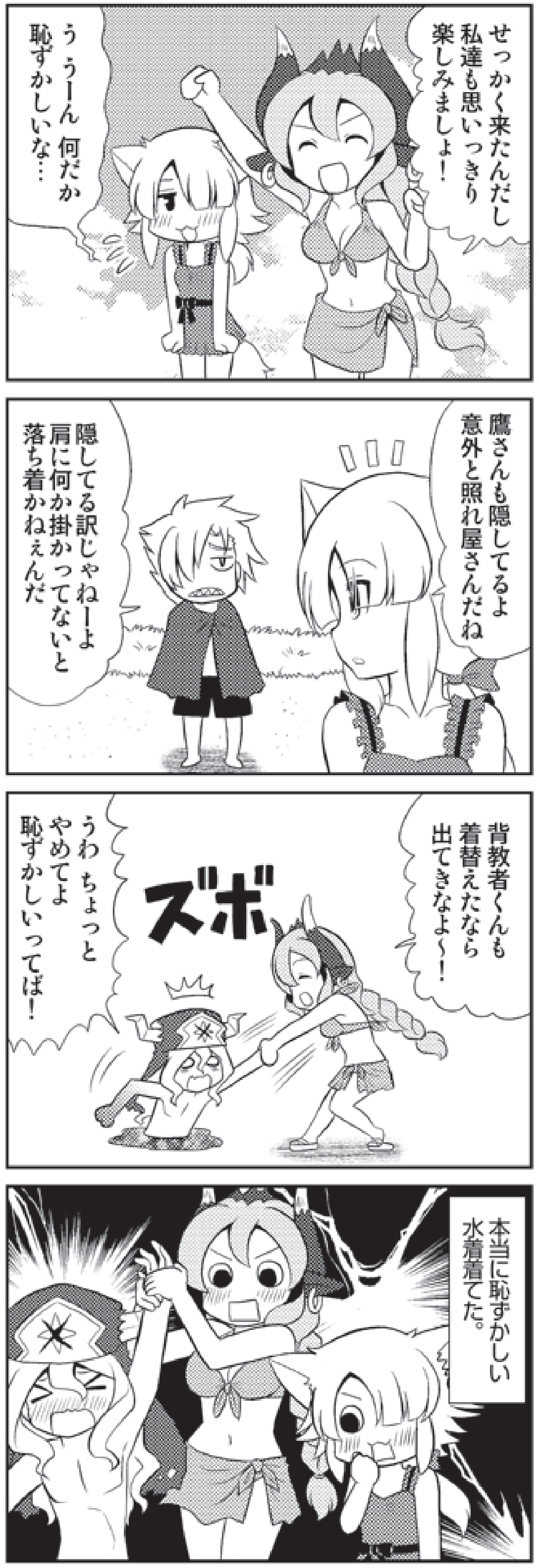
★ザナドゥにも夏到来!!★



怪人と海



はずかしい怪人



日常交換



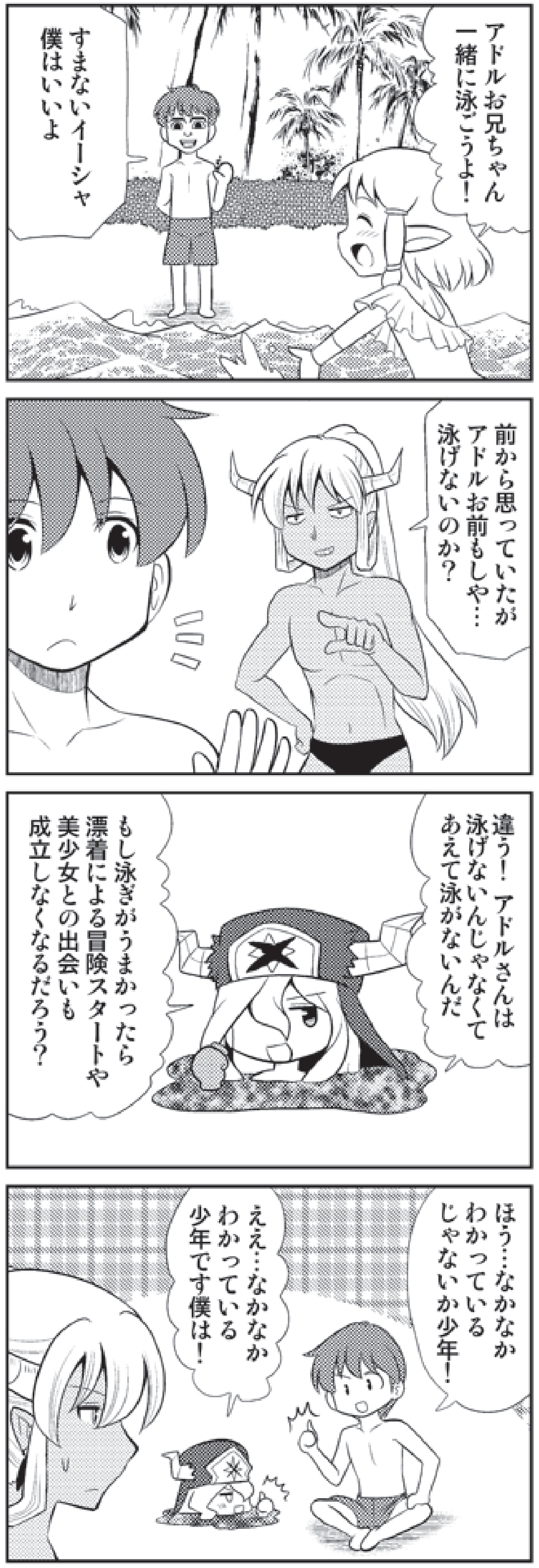
準備体操



海のなかま



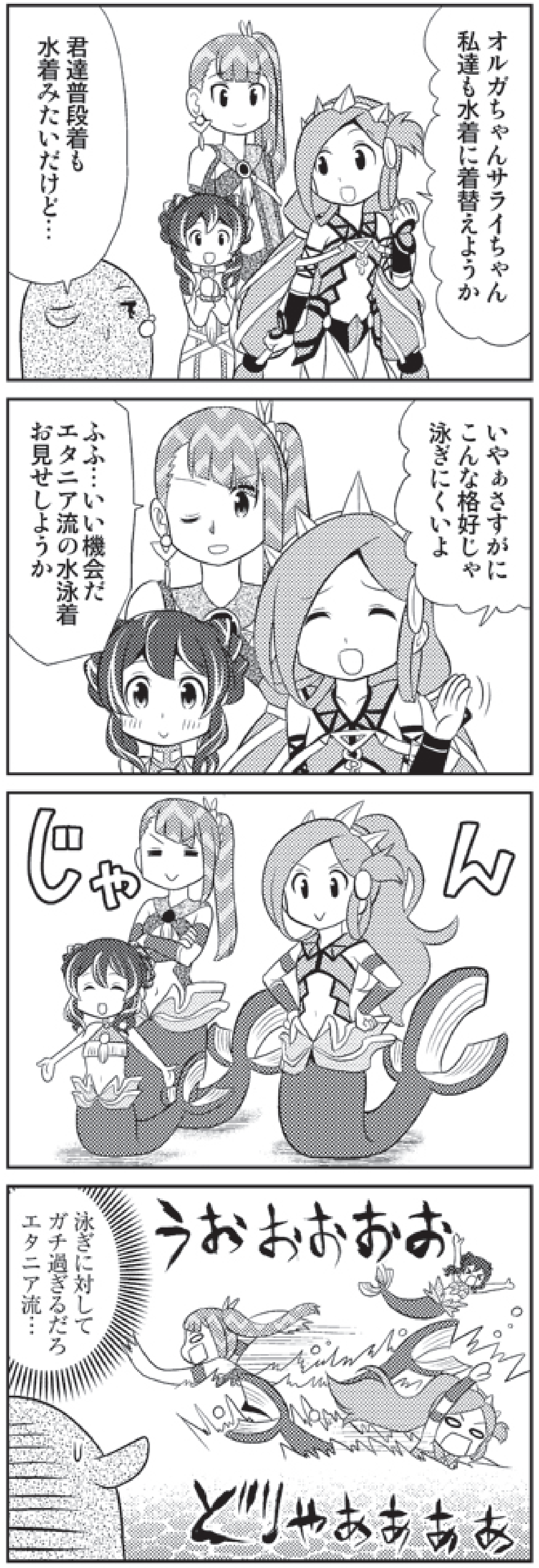
なかなかわかってる僕



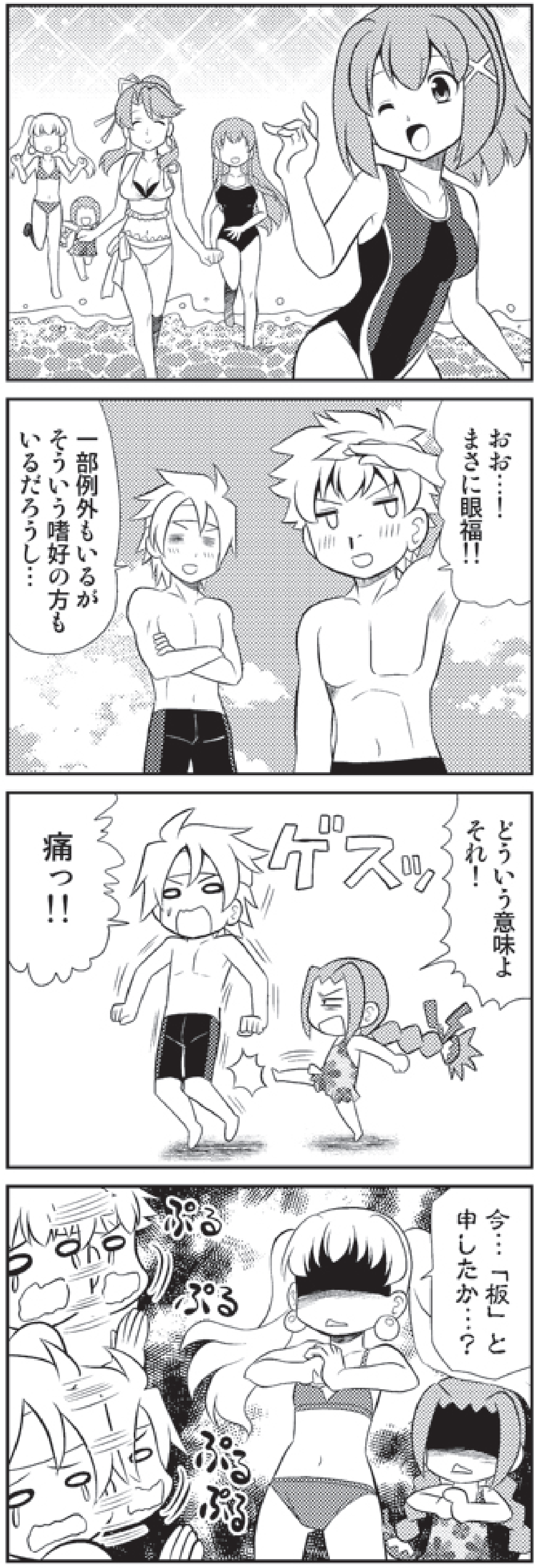
ハンドメイド水着



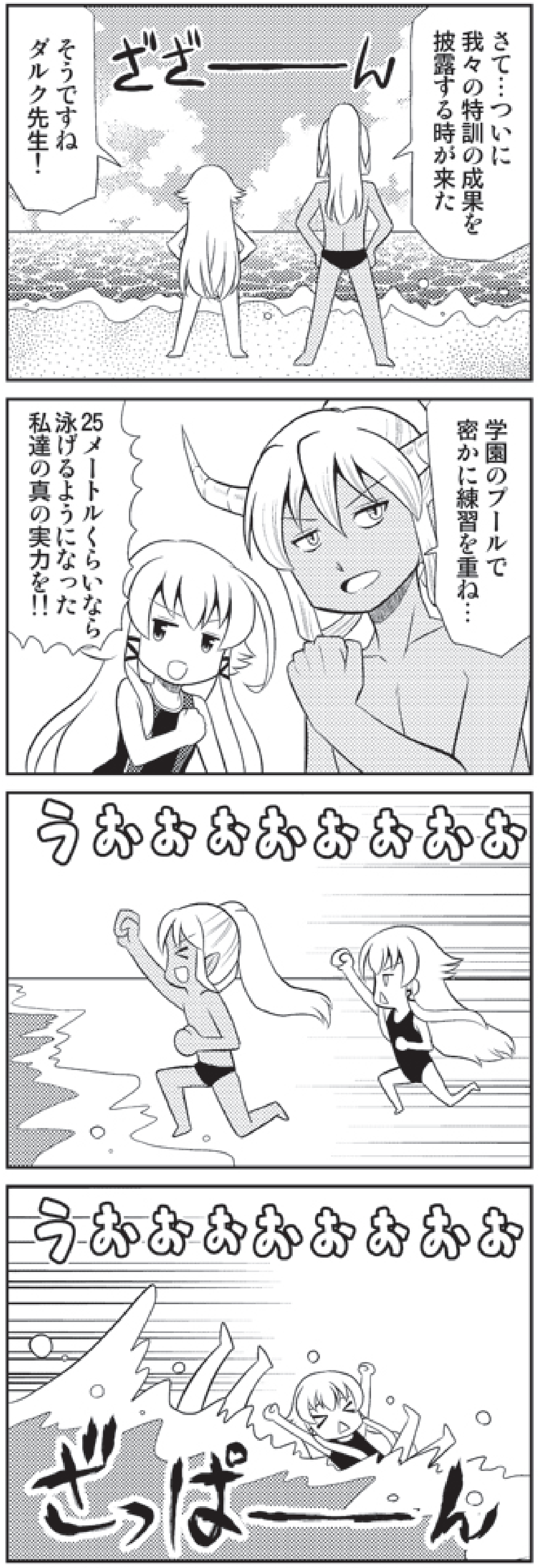
エタニア流泳法



失言



特訓の成果



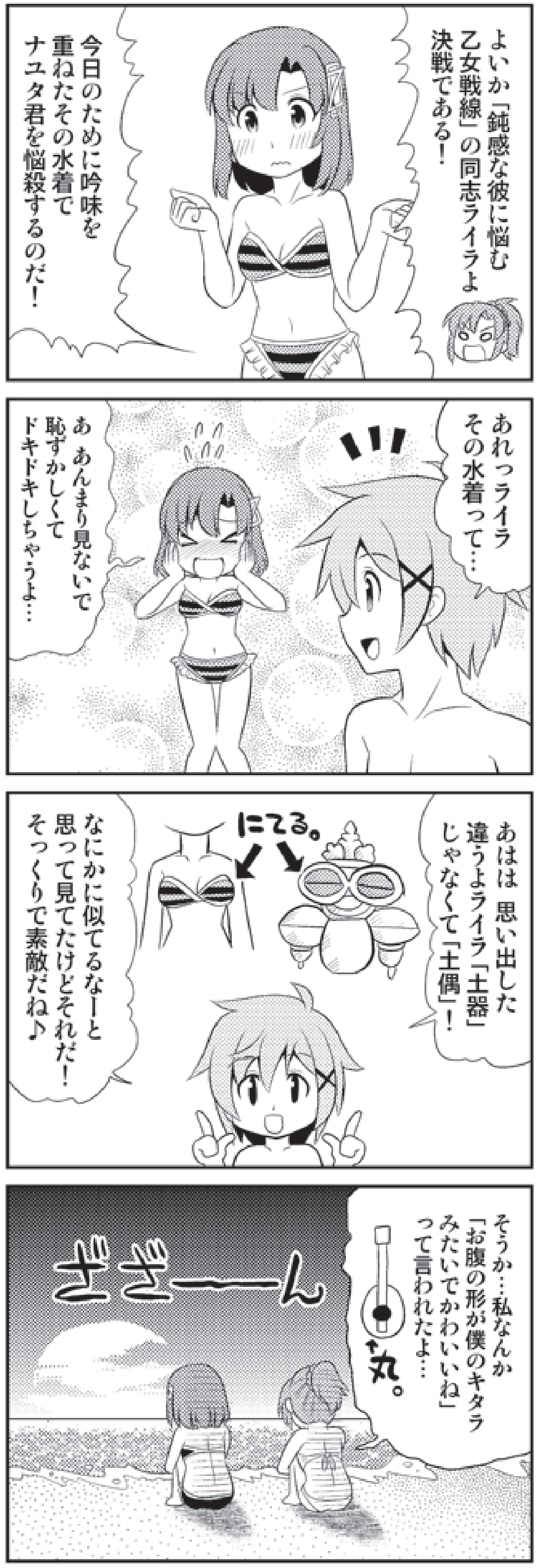
プールと海と私



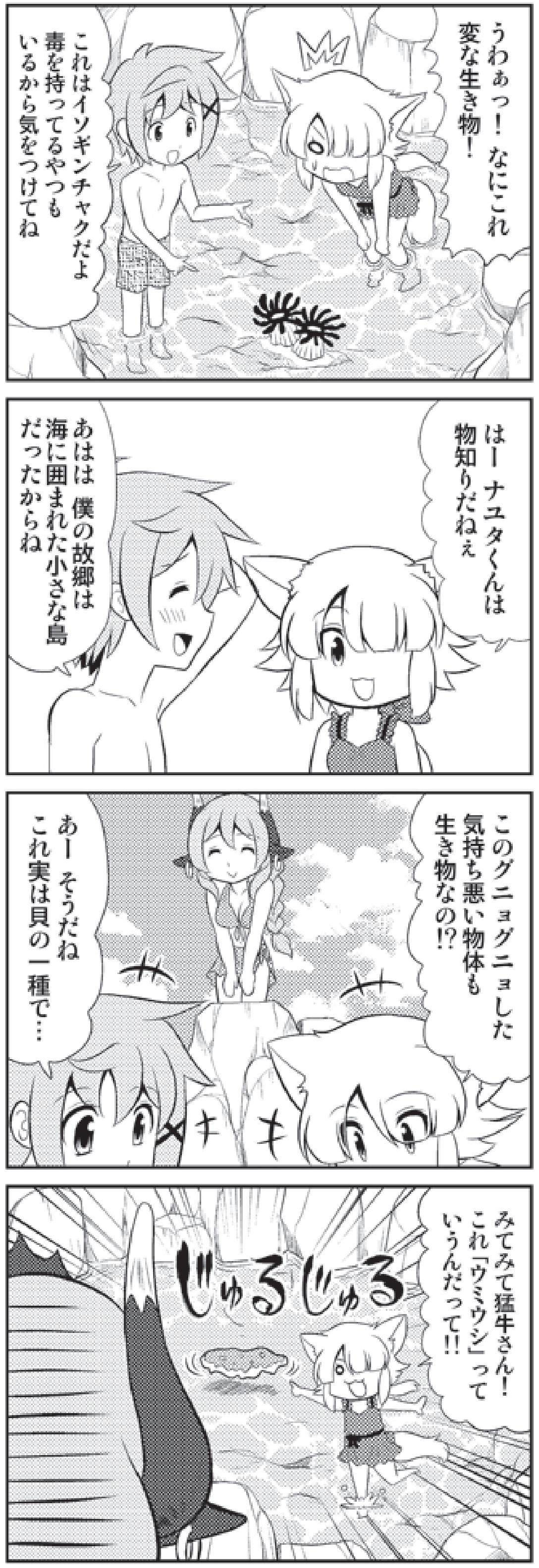
スイカがいっぱい

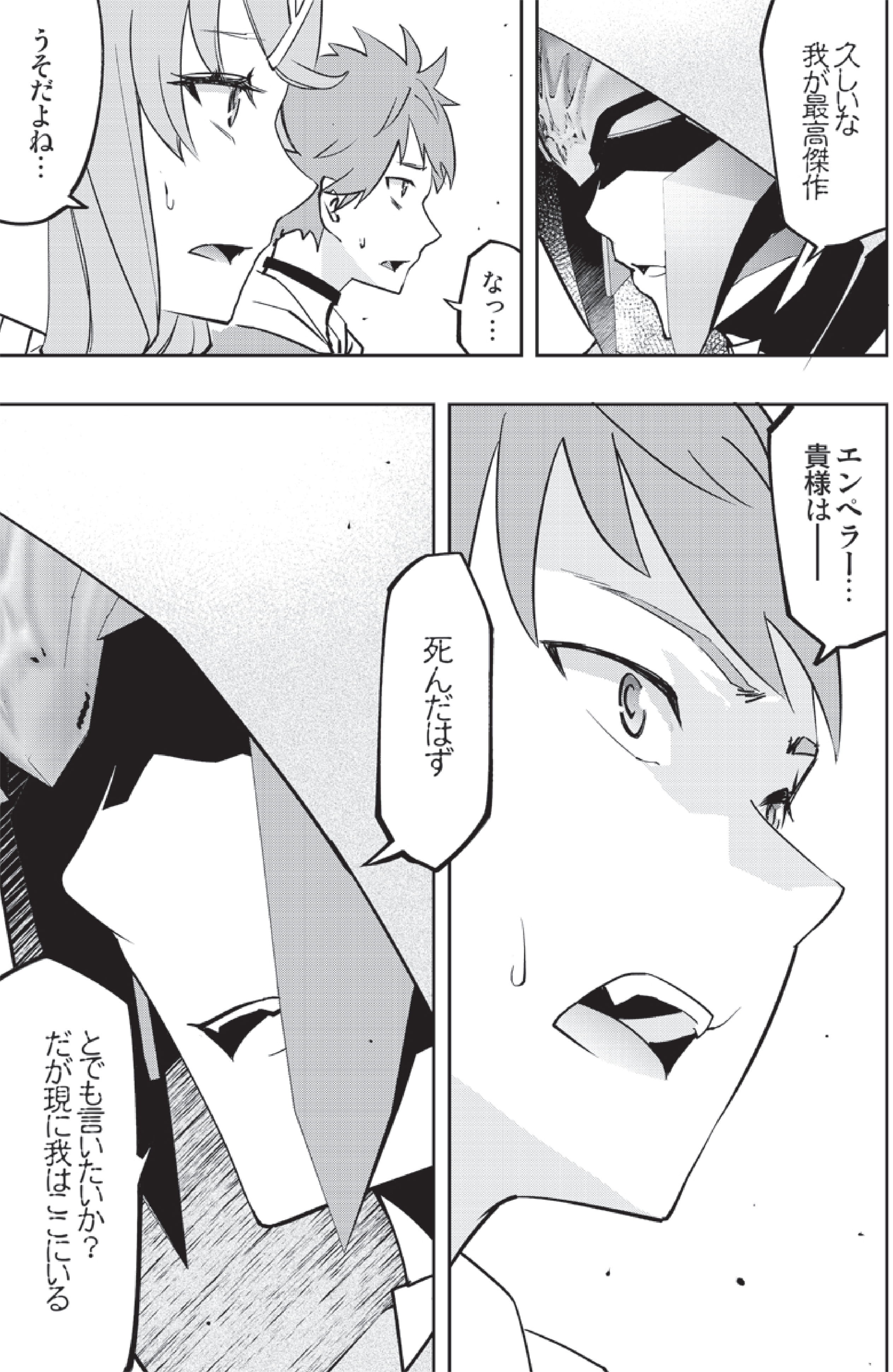


勝負水着



続・海のなかま

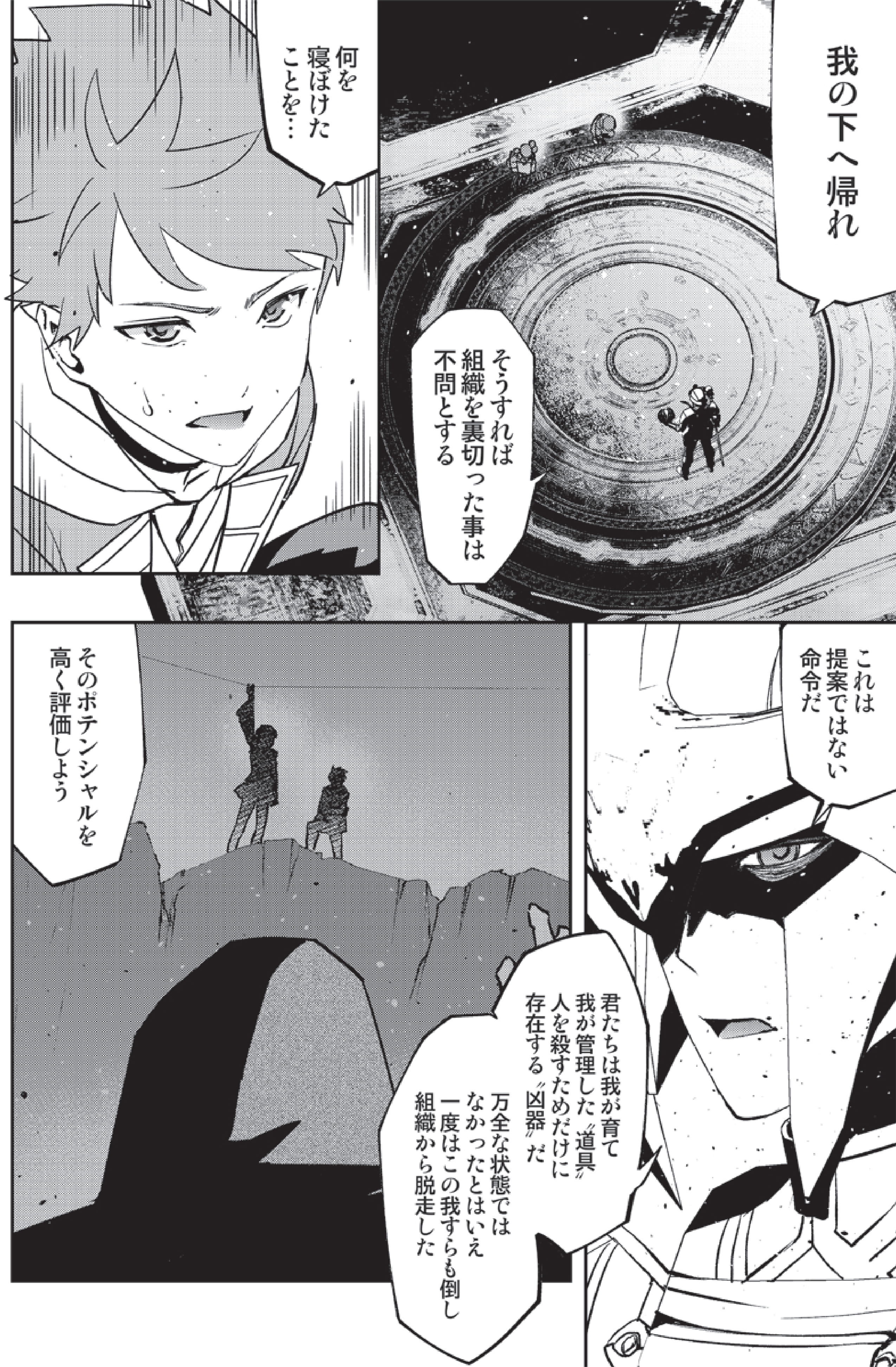


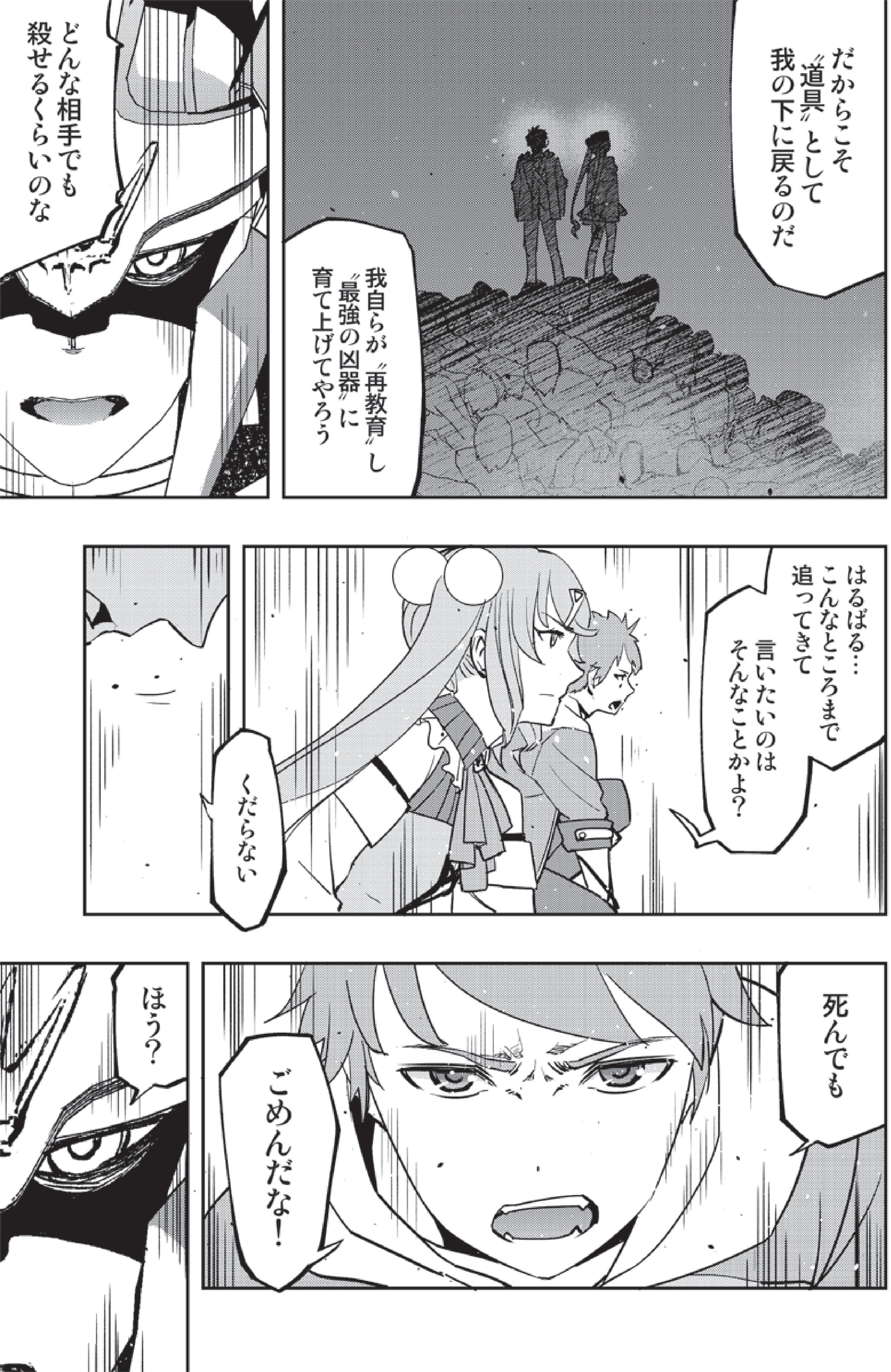

久しいな
我が最高傑作
なっ…
うそだよね…
エンペラー…
貴様は――
死んだはず
とでも言いたいか？
だが現に我はここにいる


穏やかで騒がしい生活が戻ってきたファルコム学園。
徐々に英雄、戦士、さらには曲者までが還ってくるなか、
新たに「イースⅨ」のキャラクターも参戦！
まだまだ止まらない異能・新久保だいすけの筆が冴え渡る！
おまたせ！待望の第2巻だよ！
も〜っと集まれ！
ファルコム学園②
新久保だいすけ
定価：本体900円+税
ISBN 978-4-8021-3213-8
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved. ©DAISUKE ARAKUBO ©2020 FIELD-Y
発行：フィールドワイ フィールドワイ公式HPはこちら www.field-y.co.jp
発売：メディアパル ファルコムブックス公式HPはこちら www.field-y.co.jp/falcombooks


それだけじゃない
なーちゃん達が各地にばらまいたはずのパーツが全部揃ってる…！
重力を操る古代遺物一式――《照臨のレガリア》！
ファサ…
これの回収には協力者の力を借りたがな
協力者…？
THE LEGEND OF HEROES
創の軌跡
【はじまりのきせき】
THE MISERABLE SINNERS
漫画 墨天業
原作 日本ファルコム


今の我は
この地の新たな統治者に
力を貸している
あの
ルーファス
新総統に!?
それは…
〝組織〟の方針なの?
あくまで
我の判断だ
〝組織〟はこの件で
動いていないし
他の管理人も
関知していない
……
無駄話はこの辺にしよう
せっかくの再会だ
本題といこうか
……


我の下へ帰れ
そうすれば組織を裏切った事は不問とする
何を寝ぼけたことを…
これは提案ではない命令だ
君たちは我が育て我が管理した〝道具〟人を殺すためだけに存在する〝凶器〟だ
万全な状態ではなかったとはいえ一度はこの我すらも倒し組織から脱走した
そのポテンシャルを高く評価しよう


だからこそ〝道具〟として我の下に戻るのだ
我自らが〝再教育〟し〝最強の凶器〟に育て上げてやろう
どんな相手でも殺せるくらいのな
はるばる…こんなところまで追ってきて
言いたいのはそんなことかよ?
くだらない
死んでも
ごめんだな!
ほう?


この重力でも
耐えられるとは
いや 慣れてきたか？
あなたの能力くらい
とっくに攻略済みよ
ナーディア
無理するなよ
してないよ
すーちゃんと
一緒なら
無理でもなんでも
ないんだから
ククッ
いいだろう
ならば今この場にて
〝再教育〟をはじめる！
死にぞこないの
くせして
よく言う！
煉獄行きのチケット
もう一回
サービスしてあげる！
我が道具よ
今こそ
矯正してやろう…！


道具は道具らしくしておけ!!
愚か者どもが!!

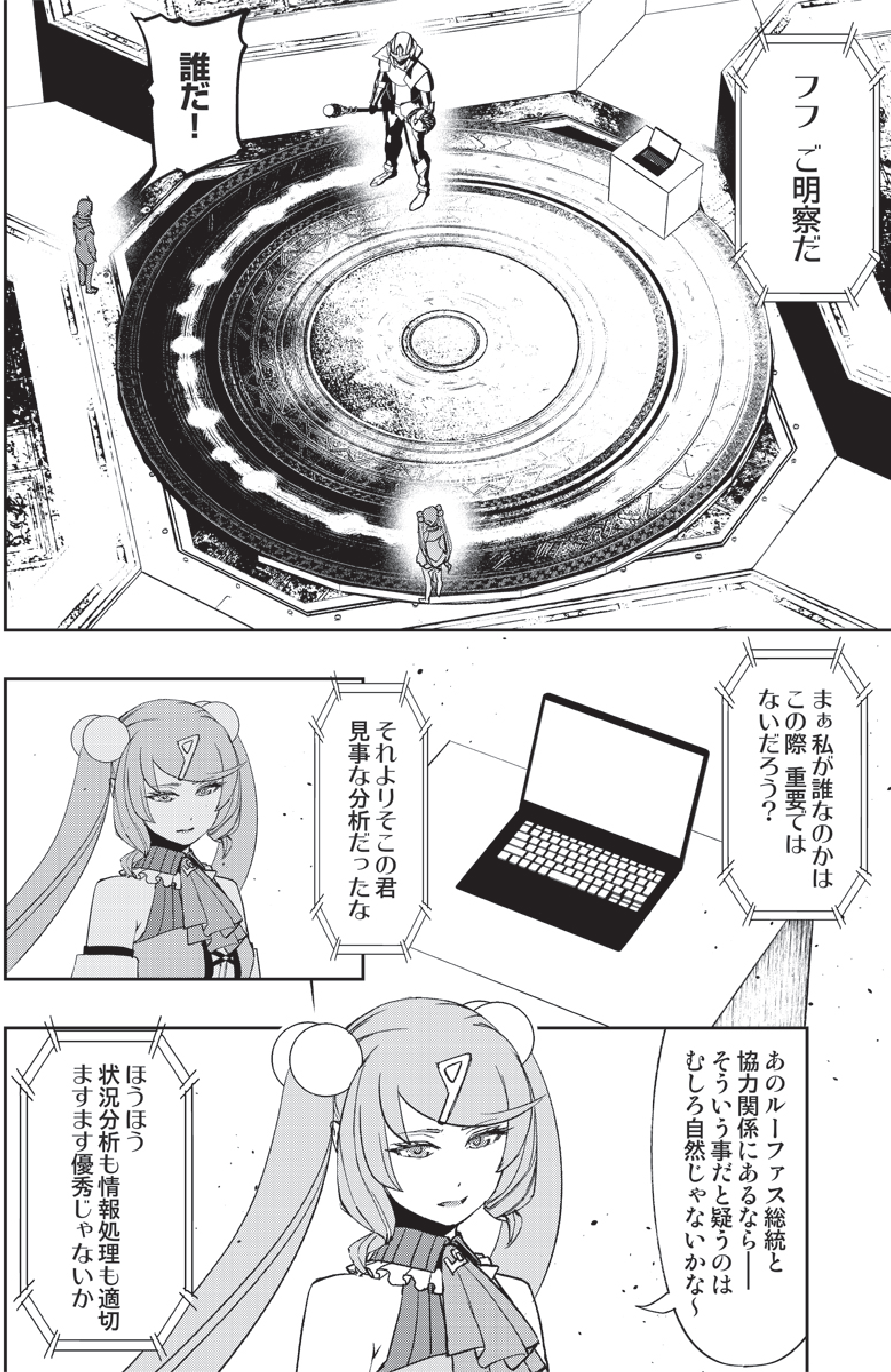

フッ

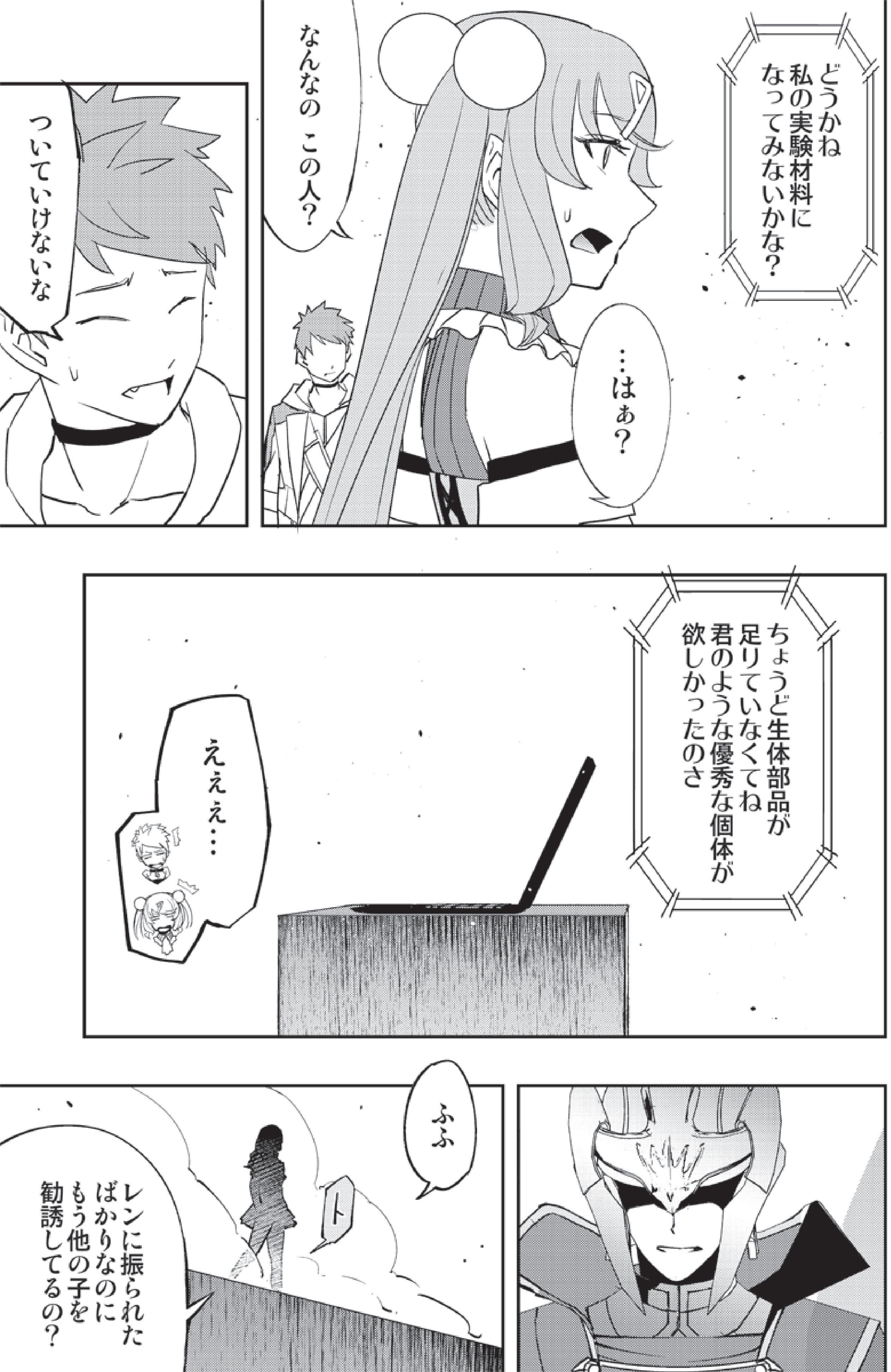

ギン
ガン
ギン
ギッ
ガッ
カカッ
ギンン

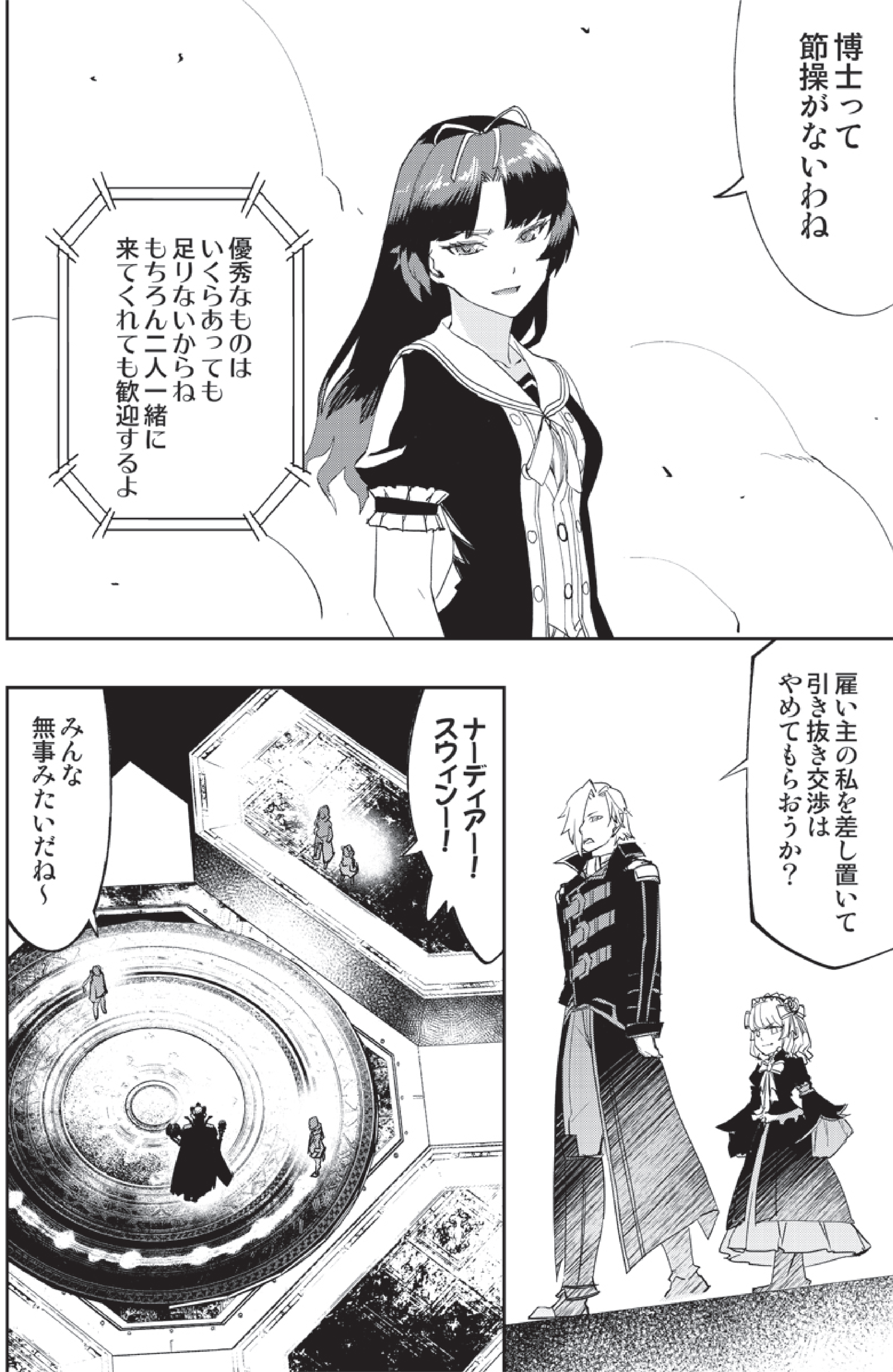

あの時より
強くなったたな
ドッ
あれから散々
組織の追手と
戦わされたんだ
強くもなる
クックックッ
やはり君たちは
最高の素材だ
我がこれから…
ねぇ　もう…
いいんじゃ
ないかな?
なに…?


すーちゃんも薄々気づいてるんじゃないの？
戦闘中の細かい癖なんかに
……
ああ わずかだが違和感がある
主な戦い方は以前のエンペラーと同じだけど
細かい動きの角度 先読みの順番 回避時の方向…
道具は道具らしくしておけ!!
愚か者どもが!!
以前のエンペラーとは違うよね
……
あの時と違うのは君たちだけではないということだ


それが意味があることならね
絶対支配がモットーで〝組織〟に背いた人間を全員容赦なく殺してきたエンペラーが――
条件付きとはいえなーちゃんとすーちゃんの裏切りを『不問にする』なんて…
それと〝組織〟の方針を無視した独断での行動…
以前のあなたじゃ考えられない事よ？
あなたのその変化は特に強くも弱くもなってないしフェイクとかに繋がるわけでもない
意味がないのに変わったの
つまりこの人は死んだはずのエンペラーじゃない
限りなく本物に近い――
偽物よ…！
……

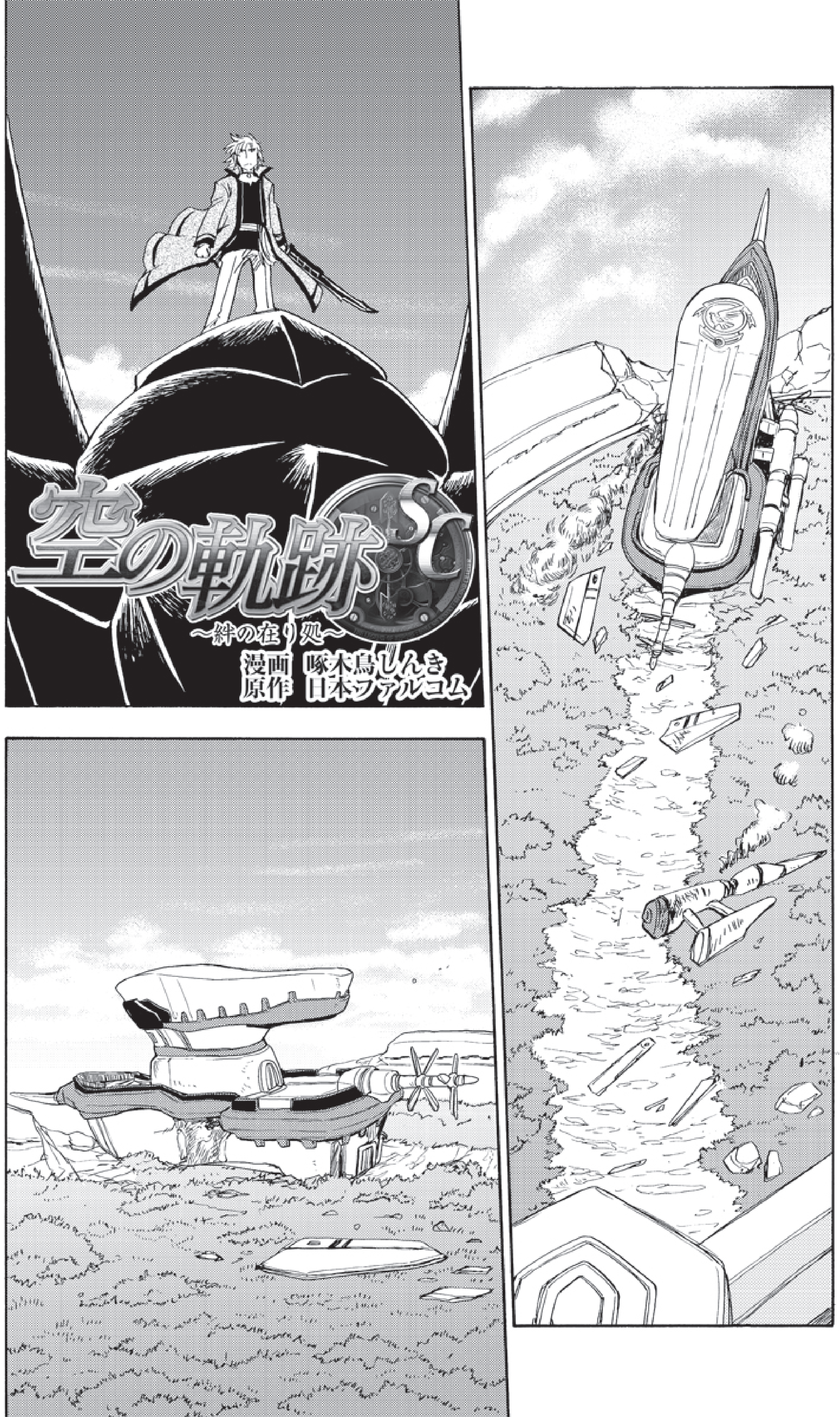

フフ　ご明察だ
誰だ！
まぁ私が誰なのかは　この際　重要では　ないだろう？
それよりそこの君　見事な分析だったな
あのルーファス総統と協力関係にあるなら　そういう事だと疑うのは　むしろ自然じゃないかな〜
ほうほう　状況分析も情報処理も適切　ますます優秀じゃないか


どうかね　私の実験材料に　なってみないかな？
…はぁ？
なんなの　この人？
ついていけないな
ちょうど生体部品が　足りていなくてね　君のような優秀な個体が　欲しかったのさ
えぇぇ…
ふふ
ト
レンに振られた　ばかりなのに　もう他の子を　勧誘してるの？

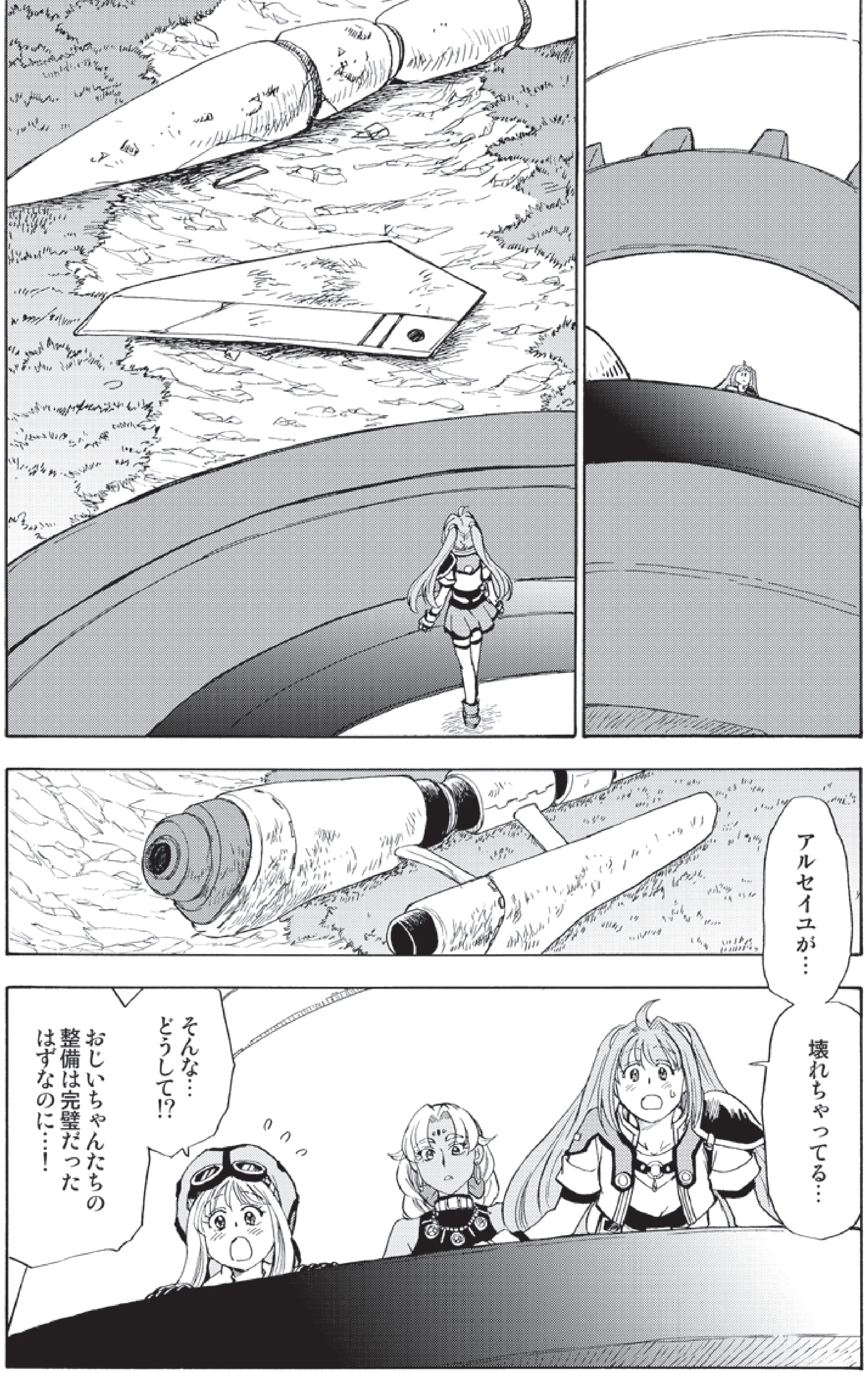

博士って節操がないわね
優秀なものはいくらあっても足りないからね もちろん二人一緒に来てくれても歓迎するよ
雇い主の私を差し置いて引き抜き交渉はやめてもらおうか？
ナーディアー！スウィンー！
みんな無事みたいだね～

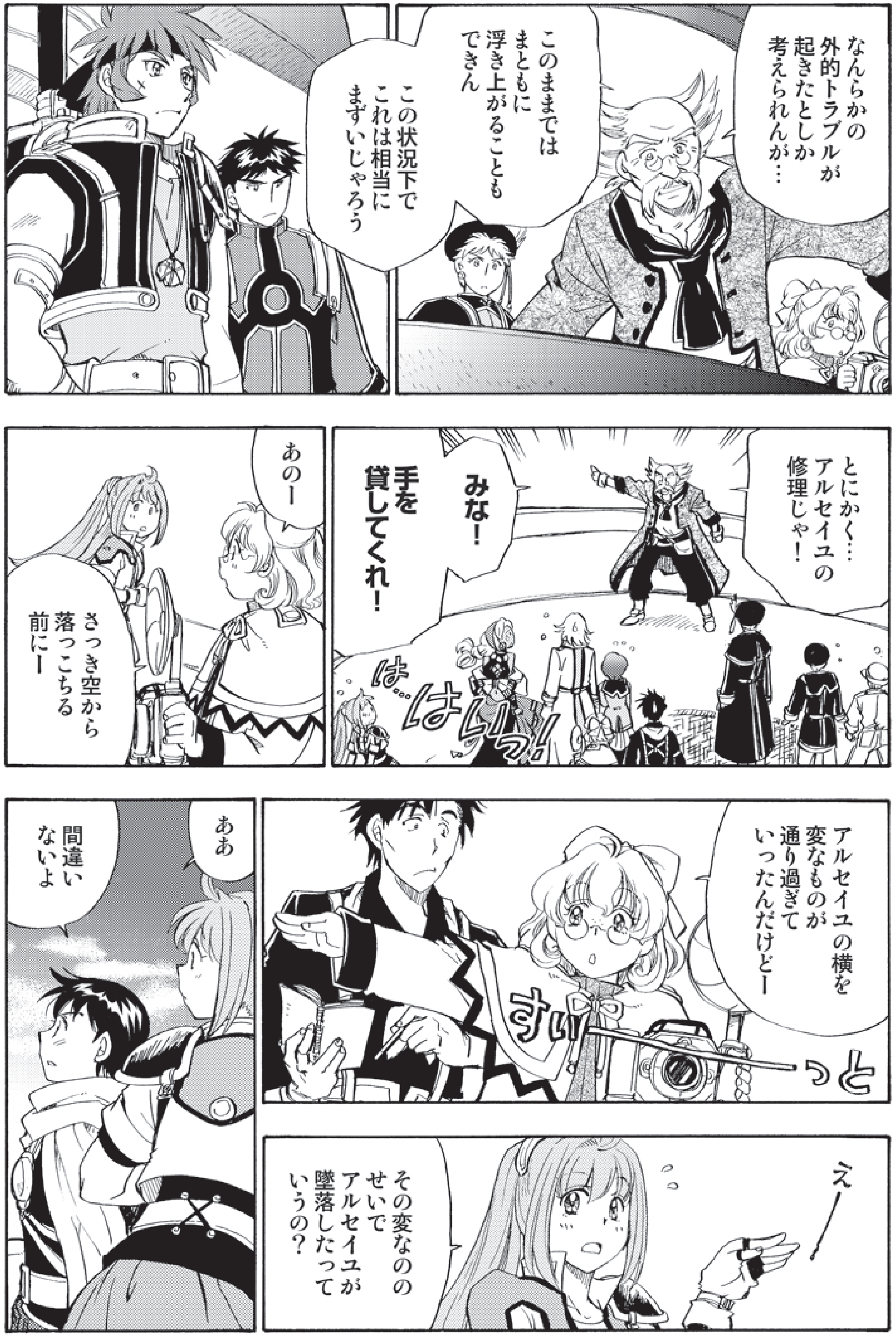

おやおや役者が揃ったか余興の方はちゃんと楽しめたかかな？
博士――…
ふむ 何かね？
邪魔だ！
我の〝再教育〟の最中だ出しゃばられては困る
まだそんな事を…
あなたが本物のエンペラーじゃない事はもうお見通しなのよ？
それがどうした？
オリジナルのエンペラーはもはやこの世にいない
ならば…


この力と記憶を与えられた我こそが唯一にして〝本物〟のエンペラーであろう
そして君たちふたりに対してのこの執着こそが我を我たらしめる存在証明――!!
こいつっ…!
そんな風にこじらせられても迷惑なんだけど…
でもまぁこの状況じゃあ…
負ける気がしないね~
まったくだ
Fortsetzung folgt


空の軌跡SC
~絆の在り処~
漫画 啄木鳥しんき
原作 日本ファルコム


…エステル！
大丈夫!?
ケガしてない!?
あーー
うん 平気
みんなは？
なんとか無事だぜ
こちらも大丈夫です
あたしたち…落ちたのよね
一体何が起こったの？

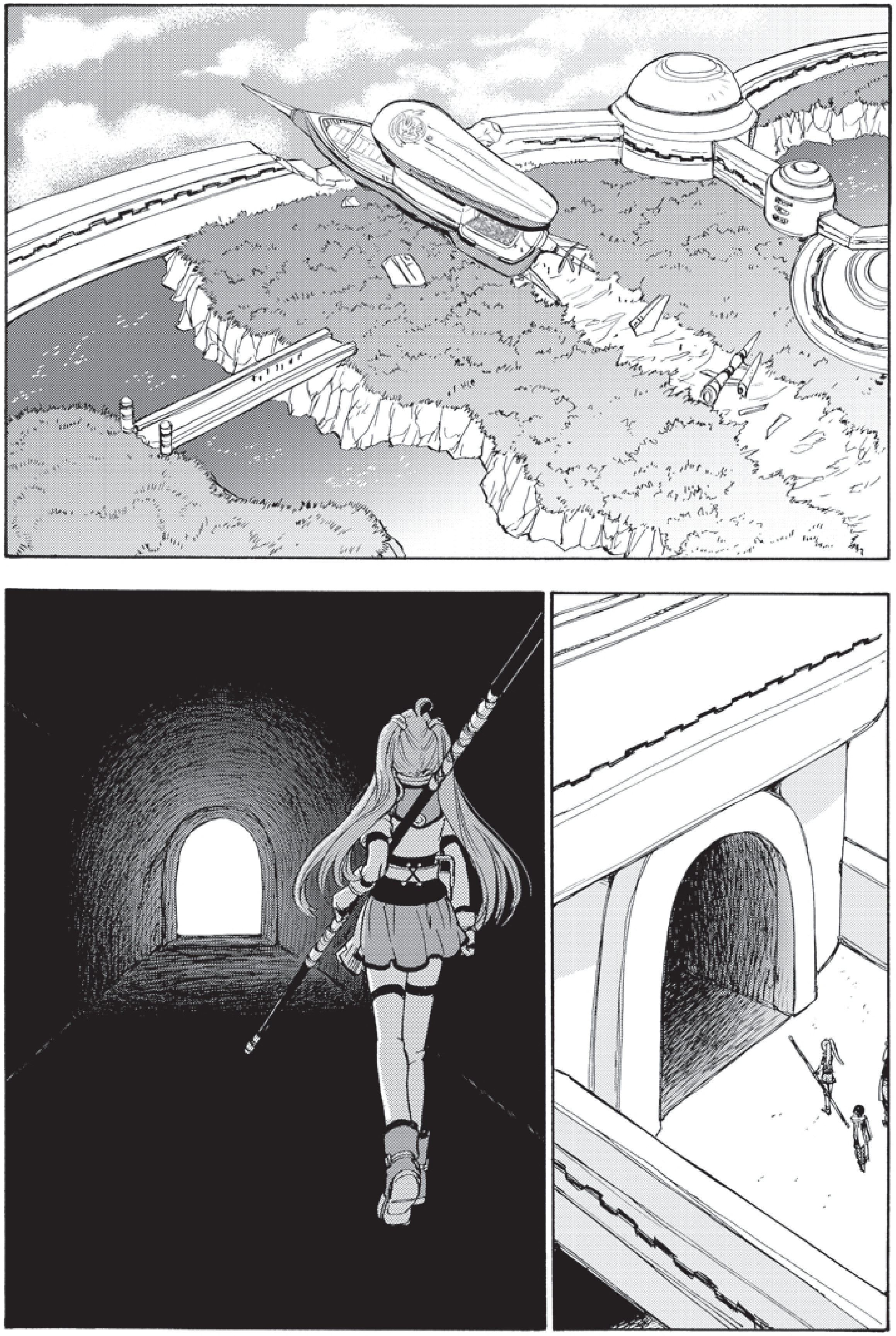

アルセイユが…
壊れちゃってる…
そんな…どうして!?
おじいちゃんたちの整備は完璧だったはずなのに…!

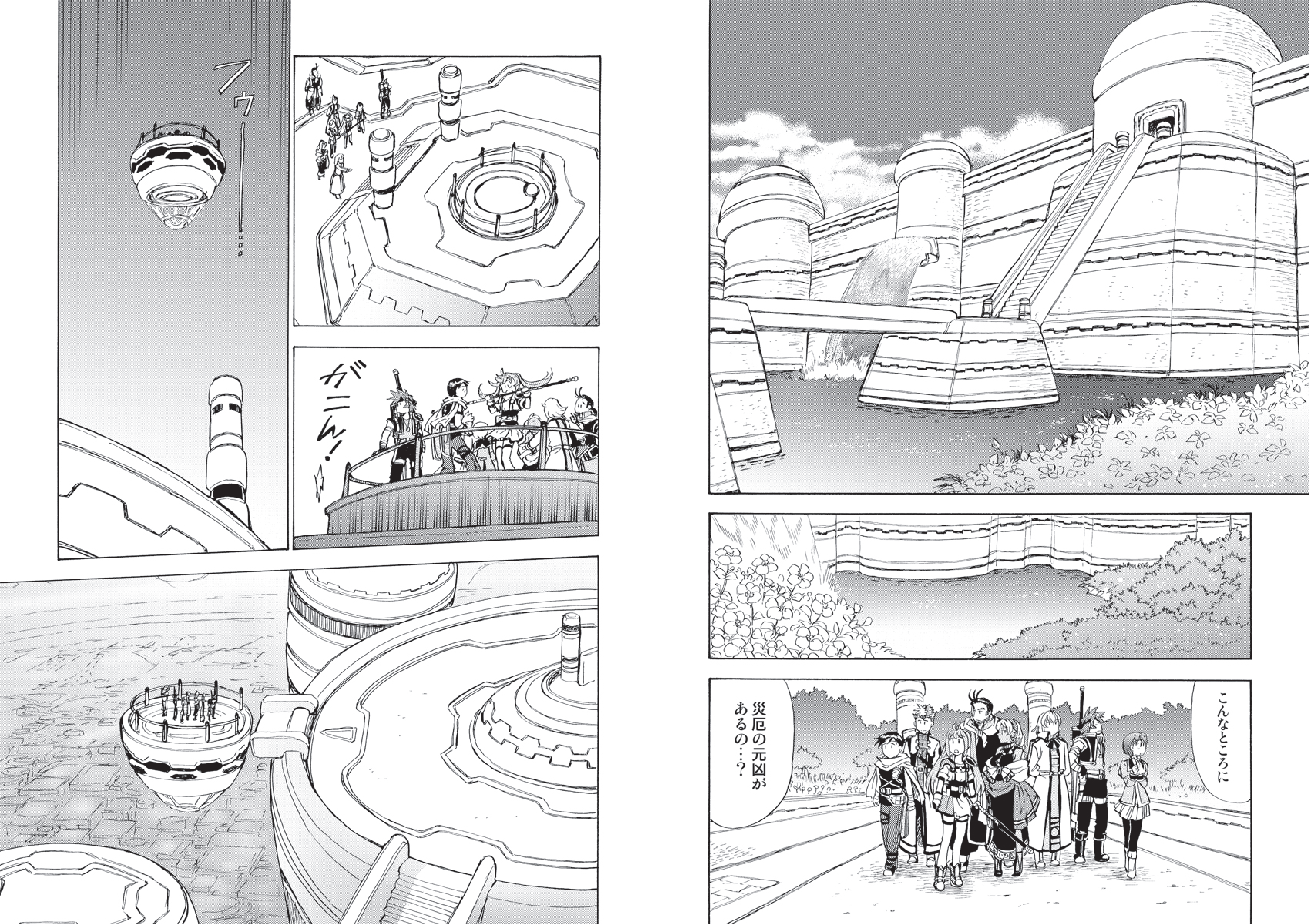

なんらかの外的トラブルが起きたとしか考えられんが…
このままではまともに浮き上がることもできん
この状況下でこれは相当にまずいじゃろう
とにかく…アルセイユの修理じゃ!
みな!手を貸してくれ!
は…はいっ!
あのー
さっき空から落っこちる前にー
アルセイユの横を変なものが通り過ぎていったんだけどー
すいっと
えー
その変なののせいでアルセイユが墜落したっていうの?
ああ
間違いないよ

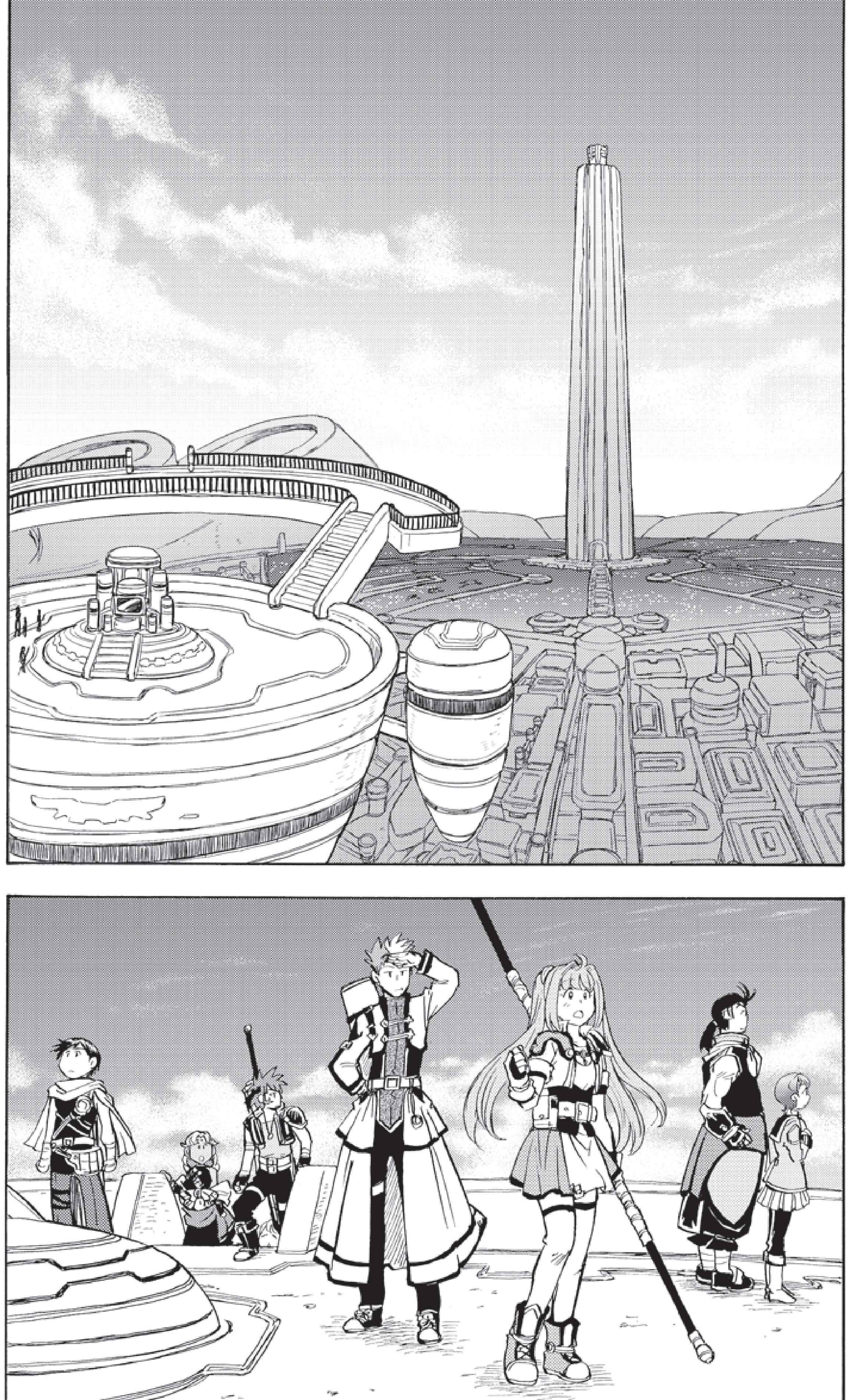

空飛ぶ船をすれ違いざまにたたき落とす
そんなことができるのは結社の中でもレーヴェ以外にありえない
結社はすでにここに来て
着々と準備を進めているんだ
これは彼らから僕たちへの
宣戦布告だよ


だとしたら悠長にやってる場合ではなさそうだ
はい
彼らの手に《輝く環（オーリオール）》が渡ったらどのようなことになってしまうか
どう考えてもロクなことにはならないでしょうね
ごめん！ラッセル博士！
あたしたち行ってきていい!?
結社の計画はあたしたちが
必ず阻止してみせるから！


無論じゃ！
行ってこい！
アルセイユはわたしたちがちゃんと直しておくからね！
諸君らの命綱は我々が守る！
こちらのことは気にせず己の任務を全うしてくれ！
くれぐれも気をつけて！
よろしく頼む！
ありがとう！
行ってきます！

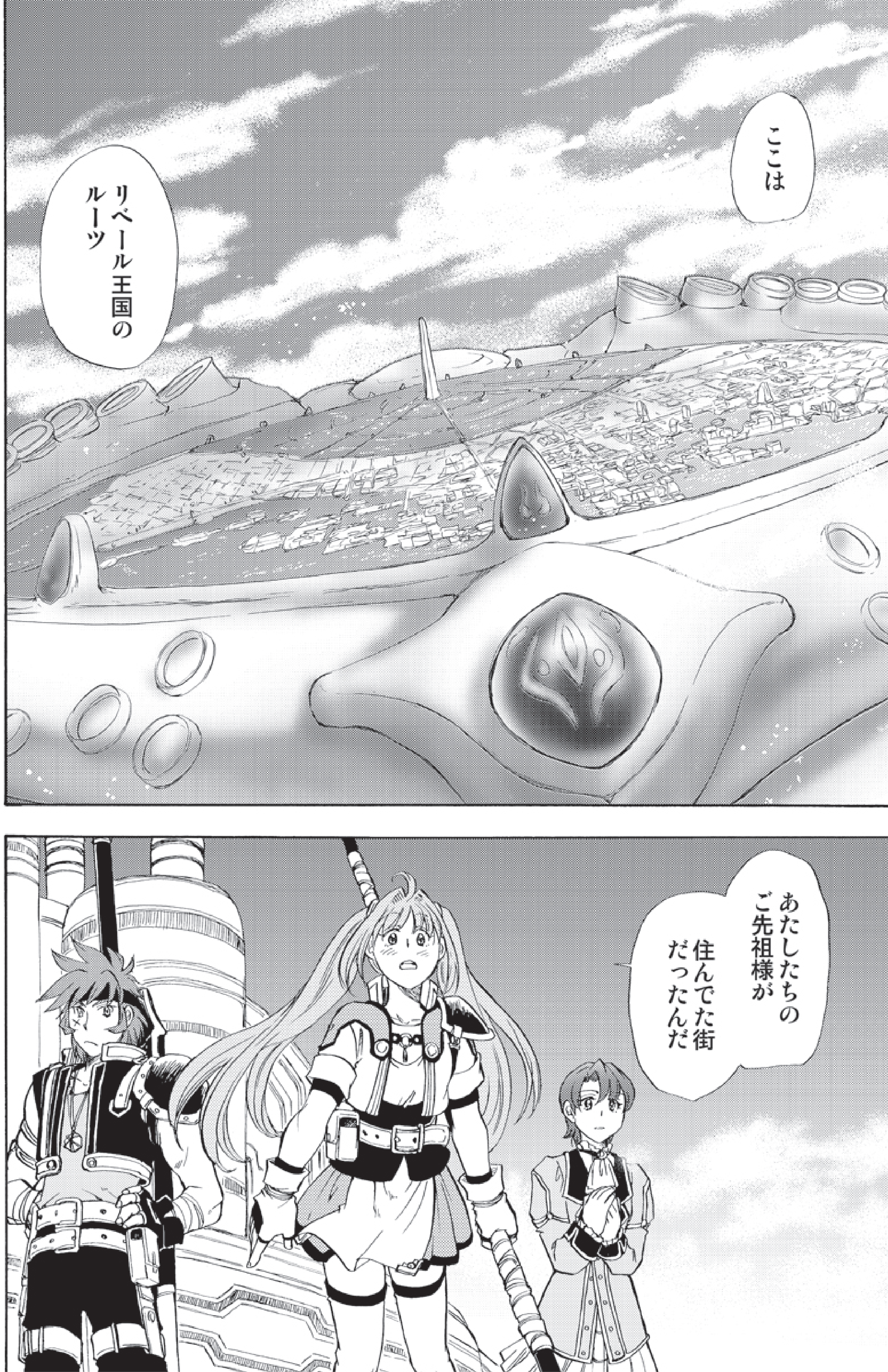


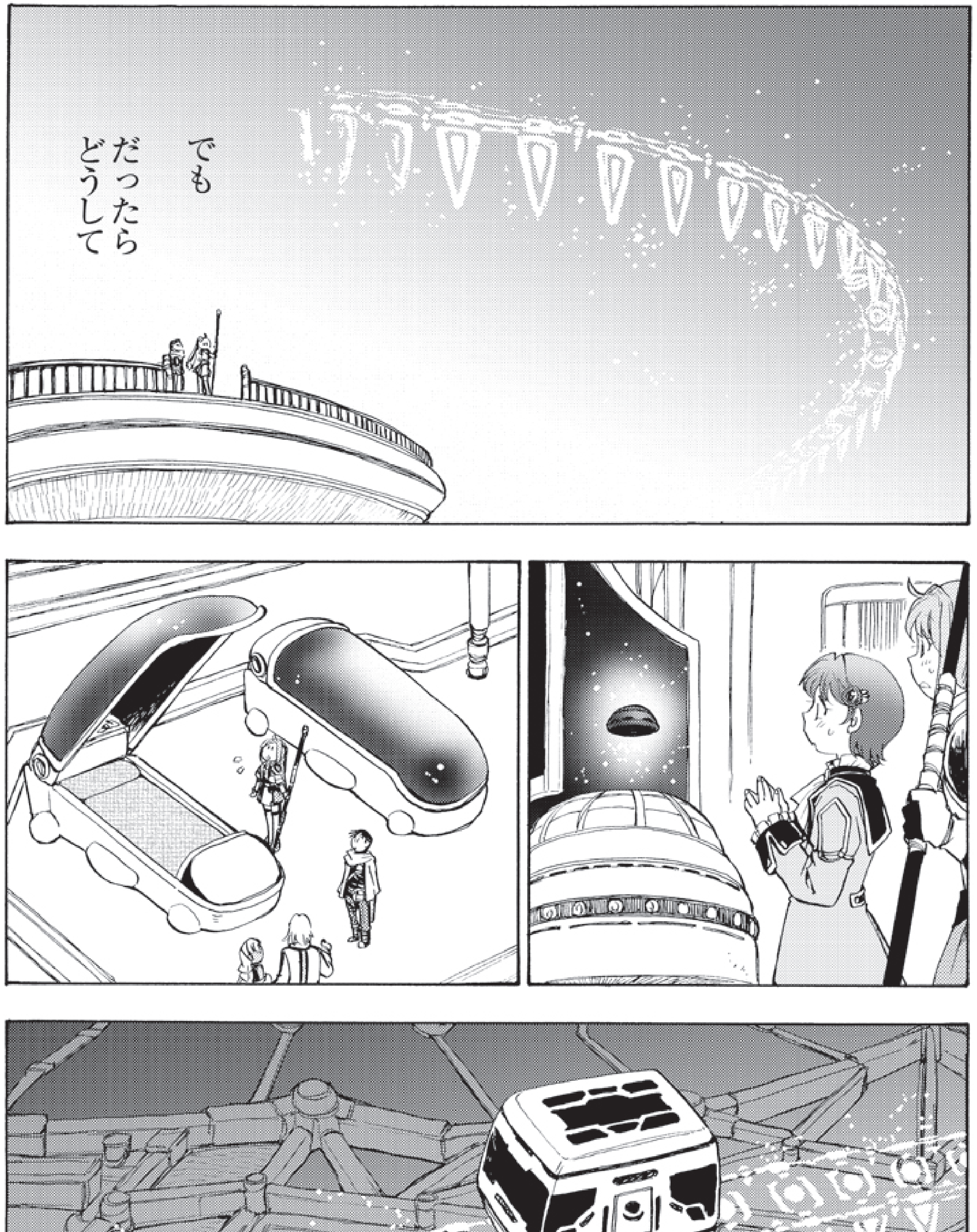

こんなところに
災厄の元凶があるの…？
フゥー…
ガニン！

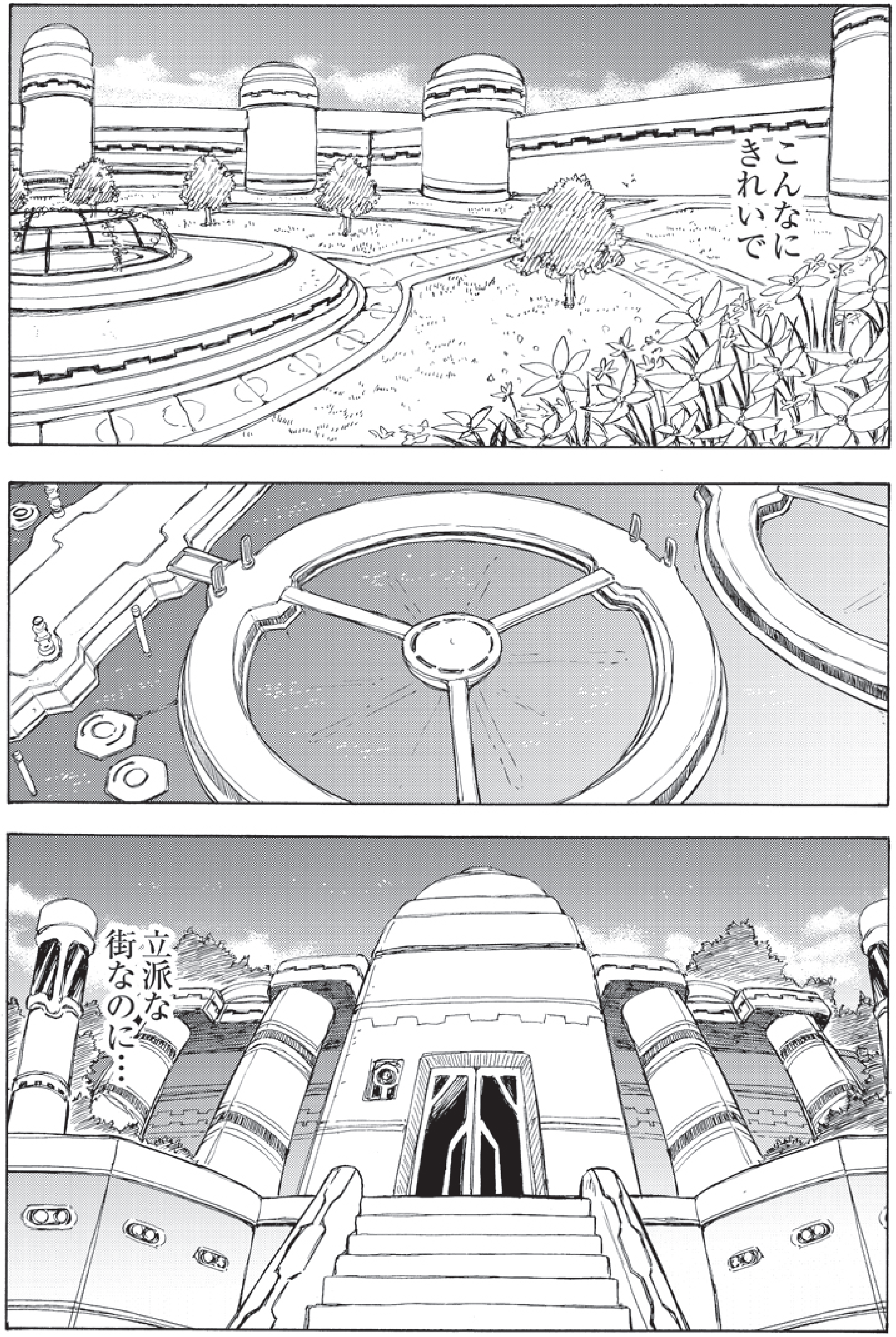


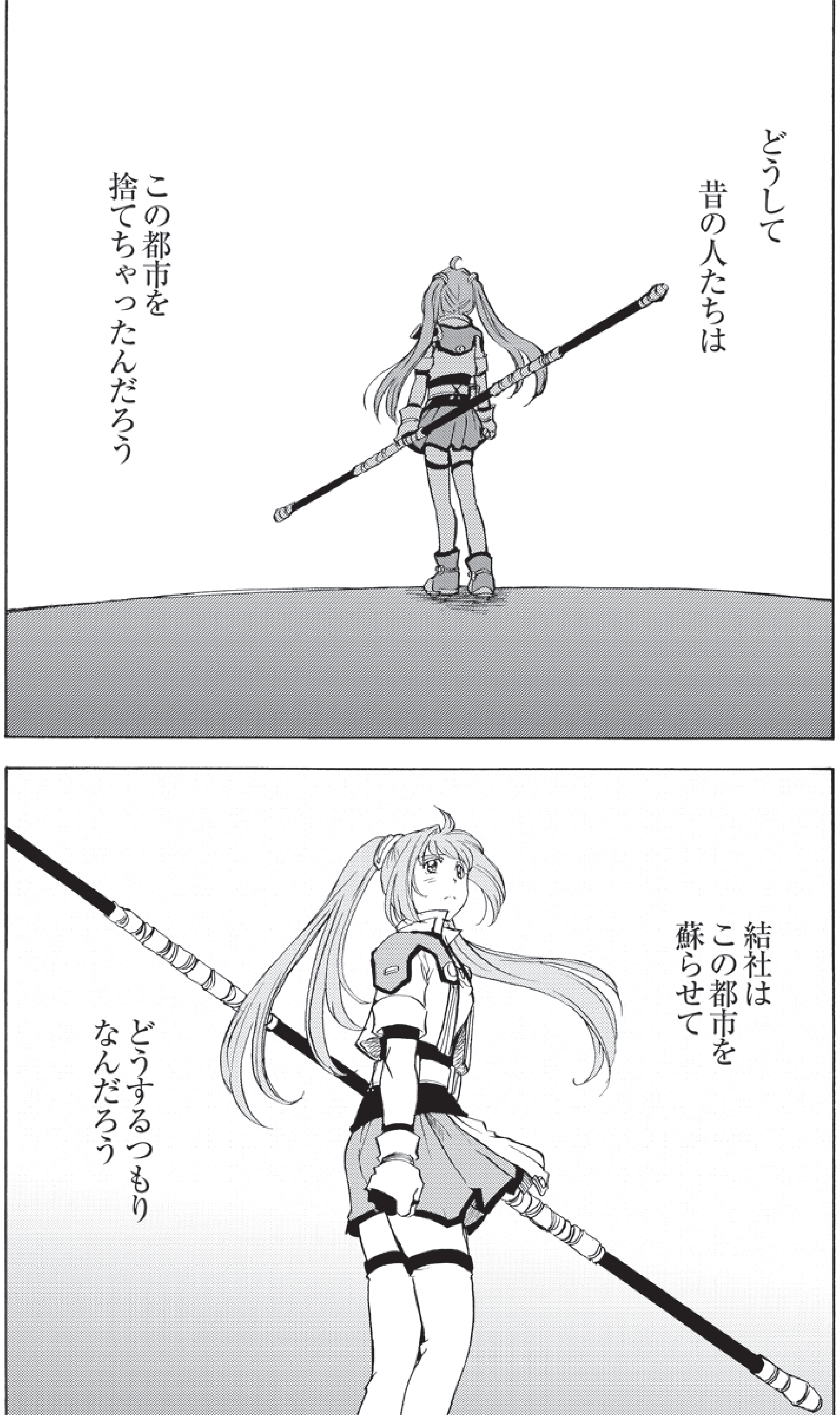


ここって…もしかして街…なのかな
そやね
大崩壊前まで古代人が暮らしてた古代ゼムリア文明の大都市…やったんやろな
もう人は住んでないの?
たぶんね
《輝く環(オーリオール)》と共に封印された時に住民のほとんどは退去したらしい
…どうやらこの浮遊都市の名前は
《リベル・アーク》というみたいだ
リベル…
なんだか響きが似てるな
はい…
もしかして「リベール」の語源なんでしょうか…
だとしたら


ここは
リベール王国のルーツ
あたしたちのご先祖様が住んでた街だったんだ


でもだったらどうして


こんなに
きれいで
立派な
街なのに…


どうして
昔の人たちは
この都市を
捨てちゃったんだろう
結社は
この都市を
蘇らせて
どうするつもり
なんだろう


ようこそ
遊撃士諸君
諸君が来ることを
想定して ここに
メッセージを
残させてもらった
「福音計画」は
最終局面に移行し
《輝く環》が真に
目覚めるのも近い


中枢塔の頂上まで
たどり着くことが
できれば
諸君に
《環》の復活を
見せてあげよう
楽しみに
待っているよ
次回に続く

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

冒険はいつも、ここからはじまる――
『日本ファルコム 創立40周年展』開催！

2021年3月に創立40周年を迎えた日本ファルコムを祝した「日本ファルコム創立40周年展」が開催決定。
アトレ秋葉原を皮切りに国内数カ所を巡回し、さまざまな展示・企画で日本ファルコムの魅力をお伝えします。
未体験の方もファンの方も楽しめる、展示や応援企画、関連商品、購入特典などを取り揃えて皆さまのご来場をお待ちしております！

■会場・開催期間

- アトレ秋葉原3Fコスパ・トラベリング・デポ内
  2021年7月22日(木・祝)～8月15日(日)
  10:00～21:00
- ジーストア大阪
  2021年8月21日(土)～8月31日(火)
  11:00～20:00
- WonderGOO 守谷店
  2021年9月11日(土)～10月3日(日)
  10:00～21:00

このほか、仙台・名古屋・福岡地区でも開催予定！

フィギュアの展示



■入場料　　無料

※社会情勢により開催時期、内容が急きょ変更になる場合がございます。予めご了承ください。
※各店舗の営業時間に準じます。会場の事情により、開場時間が前後する場合がございますのでご了承ください。

■展示内容

- ファルコム40周年の歴史がわかる年表
- 貴重なポスターやパッケージ
- 作品紹介
- みっしぃ
- 応援ノート
- フィギュア見本展示
  （発売元：コトブキヤ）

※フィギュアの展示は予告なく変更となる可能性がございます。ご了承ください。

- 撮影スポット

撮影スポット



■展示内容グッズ



ザナドゥ
フォトプリント
Tシャツ

イース
半キャラずらし
Tシャツ



ラージトート



みっしぃ
アクリル
つままれ



メタルバッジ

■ファルコム創立40周年記念サイト
https://www.falcom.co.jp/40th/

■ジーストア・ドット・コム特設サイト
https://www.geestore.com/event/gallery/falcom40th/

ファルコム特製ステッカーセットプレゼント！

開催期間中、各会場及び対象店舗にて「日本ファルコム」関連商品（グッズ・CD・フィギュア・ゲーム・書籍など）￥3,000（税込）お買上毎に、AまたはBからステッカーをランダムで1枚プレゼント。（店舗ではAとBのいずれかをお選びいただけます）

キャンペーン用ステッカーA



キャンペーン用ステッカーB



全11種/サイズ縦26mm×横60mmの3枚綴りで1セット

■通販

- コスパWEB通販
- ジーストア・ドット・コム

7月8日(木)～8月2日(月) 12:00

※通販では、軌跡シリーズ以外の商品をご購入でAからランダム、軌跡シリーズの商品をご購入でBからランダムでプレゼントとなります。

「リィン・シュバルツァー」ファン待望の初フィギュア化！

ホビーメーカー「コトブキヤ」が手掛ける「軌跡シリーズ・フィギュア化企画」より、『閃の軌跡』シリーズおよび『創の軌跡』で主人公を務めた《灰色の騎士》「リィン・シュバルツァー」のフィギュア化が決定しました。

『英雄伝説 閃の軌跡Ⅲ』から彼が身に纏う教官服をはためかせ、八葉一刀流の剣術を今繰り出さんとする瞬間を力強く立体化。衣装の細かなディテールや、彼の愛用する太刀も精密に再現され、足元には、長きに渡り彼とともに戦った相棒・《灰の騎神》ヴァリマールをプリント。仲間とともに数々の困難を乗り越え、終焉に諍い戦った"英雄"を、ぜひお手元でお楽しみください。



※商品予約は8月開始予定となります

それでも最後まで諍うと決めた。
――俺が、俺自身であるためにも！



■商品名
「リィン・シュバルツァー」

■サイズ
未定（1/8スケール）

■価格
未定

■発売月
未定

『那由多の軌跡：改』がキュートなGraffArtグッズで新登場！

キュートな絵柄が魅力のGraffArtシリーズに、「那由多の軌跡：改」が新たにラインナップ。主人公ナユタをはじめ、ノイやクレハ、幼馴染のシグナ、ライラがキュートなグラフアートで描かれています。





■店舗発売日
8月28日(土)

■発売店舗
GraffArtShop池袋本店、なんば店、名古屋店

■通信販売(予約)
7月26日(月)～

■店頭受取予約
7月26日(月)～8月1日(日)

7月の

新／衣装替えキャラクターをチェック！

THE LEGEND OF HEROES

暁の軌跡

アカツキノキセキ



水着・クロチルダ

衣装から足元まで純白のコーディネートが眩しいクロチルダの水着姿。使徒としての異名にもあるように蒼のイメージが強いだけに新鮮だ。

毎月魅力的な新キャラクターや衣装替えキャラクターが大注目の『英雄伝説 暁の軌跡』。
７月はメインストーリーの終章第２弾の後篇が実装！
さらにクロチルダが暑い夏にぴったりな衣装姿を披露！

『英雄伝説 暁の軌跡』公式ホームページ
http://akatuki.ujj.co.jp/
公式ツイッター
https://twitter.com/akatsuki_ujj

メインストーリー終章第２弾「《戦争卿》の正体／後篇」を実装！

《戦争卿》による“宣戦布告”の期限が刻一刻と迫る中、ヨルムンガルド号に衝撃の事実が発覚する。
敵は試験班を嘲笑うかのように先を読み、戦況を有利に進めてゆく。
いよいよ追いつめられていく試験班。起死回生の一手は――。









※画像は開発中のものです。　※上記のイベントは状況により内容の変更を行う場合があります。

「どうした！　もう終わりかい？」
挑発するようにカルナに言われてエステルの全身の血が熱くなった。
「まだまだあ！」
跳ねるように飛び起きる。エステルは棍を構えなおした。
だが両脚に力が入らない。
先ほどからの連続攻撃の疲労が体内に蓄積し、腿の筋肉が悲鳴をあげていた。
それはエステルの攻撃を受けつづけていたカルナも同じはずなのだが、彼らのリーダーであるク

ルツは魔法（アーツ）に長けているらしく、カルナよりもさらに後方に控えたまま、先ほどからせっせと回復の魔法（アーツ）を使っている。おかげでエステルがいくら追い詰めても元気いっぱいだ。
けれど――それくらいで負けるわけにはいかない。
「これからが勝負よ！」
「いい、返事だね」
にやりとカルナが笑みを浮かべる。
カルナは武器を持つ手とは逆側の手を腰のあたりに滑らせた。導力器を駆動させようとしているのだとエステルは気づいた。
（魔法（アーツ）を使う気だ！）
エステルとカルナの間には五歩以上の距離があり、間合いを詰めるには遠すぎた。
カルナがどんな魔法を使うつもりか判らないが、おそらくは距離があっても関係なく効果を発揮するものを使うだろう。
（間に合わない）
それでもエステルは大地を蹴りつける。
カルナたちのチームは四人ともまだ元気で、ジンはそのうちの二人を一人で相手にしていた。エステルたちの後方にいるオリビエが導力銃で援護しているのだが、まだ決着には時間が必要そうだった。頼れない。
（ヨシュアは――どこ⁉）

カルナのほうへと走りつつ視野の端で探す。
いない――？
（そんな！　いったいどこ行っちゃったの⁉）
指先でクオーツをなぞりあげ、カルナが笑みを浮かべながら武器の先をエステルへと向けてくる。そうすることで魔法の対象を限定することができる。カルナの行動は流れるように続いていて止まる気配もなかった。
「くっ！　届けえええええ！」
エステルは自らの持っている両手持ちの棍を手のなかで滑らせる。先端ができるかぎり遠くまで届くように。力を籠めるのが難しくなっても、相手をひるませることができれば――。
突き出した棍の先をカルナは首をわずかに振っただけで躱してみせた。
足を動かしてもいない。
エステルの突いた棍はカルナの頬をかすめるようにして空を切った。
無理な攻撃を行ったエステルの体勢が崩れる。
にっとカルナが笑みを浮かべた。
その顔が驚愕に歪む。
それはエステルも同じだ。
黒い影が二人の間に飛び込んできた。そう見えた。割り込んできた影は鋼の音を立ててカルナの構えていた武器を上へと跳ね上げる。駆動させ、発動しようとしていたカルナの魔法（アーツ）は寸前で唱え

直しを余儀なくされた。
カルナは後方に飛んでやり直そうとした。
飛び込んできた影はヨシュアだ。
（やっぱり——来てくれた！）
「エステル！」
カルナの武器を己の短剣で跳ね上げると、エステルの邪魔をしないよう、そのまま身体を大地に投げてふたたび視界から消えた。
「判ってる！」
短く応え、エステルは伸ばし切った棍をつかみなおす。
「カルナさん、ごめん！」
手加減している余裕はなかった。
自分の身体を回転させ、棍を鞭のようにしならせてカルナの胴体を薙ぎ払った。
金剛撃！
両手に相手の身体の重みがかかる。構わず棍を振り切った。
ふっとんで、先輩遊撃士は地面を転がる。起き上がろうとした眼前にエステルは棍を突きつけた。
「う……ま、参った」
ほう、と息を吐いてエステルは棍を引いた。
これは大会なのだから、相手の戦意が喪失した時点で戦いは終わりだ。

「お見事」
ヨシュアがにっこりとエステルに向かってほほ笑む。
ほぼ同時にジンも同じように相手にしていた二人を無力化しており、オリビエの銃にクルツは両手を上げて降参を宣言していた。
審判の「勝負あり」の声が響く。
一拍おいて、王立競技場（グランアリーナ）の観客たちの歓声があがった。すり鉢状になった競技場の底にいるエステルたちへの拍手と足踏みが鳴りやまない。
「あたしたち、勝ったの……？」
「うん、なんとか……足を引っ張らずにすんだね」
ヨシュアが言った。エステルも頷いた。ヨシュアの言うとおりだ。オリビエの援護があったとはいえ、ジンは正遊撃士である二人を相手にしていた。それに比べれば、エステルとヨシュアは二人でカルナを相手にしたわけで。それでも辛うじての勝利だった。まさに足手まといにならずによかったというところだ。
「謙遜するんじゃないよ。ジンの旦那もそうだが、あんたたちも充分手強かった」
カルナの言葉はエステルにとって何より嬉しいものだった。
控室に戻るエステルたちと入れ替わるようにカプア一家が試合場へと出て行った。
準決勝の二試合目が始まった。

　カプア一家は負けた。
　ロランス少尉が率いる特務部隊の四人組に。
　控室の扉の隙間から覗いていたエステルたちは、白熱した戦いの趨勢が一瞬でひっくり返るのを目の当たりにして思わず息を呑んだ。
　空賊たちのチームはまるで家族のように息が合った戦い方をしたのだ。実際、あの少女――ジョゼットとキールは兄妹のようだし、どうやらドルンはさらに上の兄のようだ。連携が取れているのも理解できる。
　悔しいが、カプア一家の四人は強い。戦いの腕に関しては認めるほかはない。そして途中までは確かに互角に見えたのだ。
　特務兵四人のリーダーであるロランス少尉は、試合が始まってから一歩も動かずに傍観していた。戦っているのが実質三人だけだったためか、一時はカプア一家のほうが優勢なほどだった。
　そのバランスが一瞬で崩れた。
　仮面の下からわずかに覗く口許を歪め、ロランスがすらりと腰の剣を抜いた。
　エステルはしっかり見つめていたはずなのに、彼が一歩を踏み出した瞬間が判らなかった。空賊たち四人の間をすり抜けるようにして歩いてくる。手にした剣を下げたまま、ゆらゆらと身体を揺らしながら通り過ぎただけに見えたのだが――。

†　†　†

　横切った瞬間、キールはふっ飛ばされ、ジョゼットが膝をついて顔を苦痛に歪ませた。
　最後尾にいて導力銃を撃っていたドルンだけは辛うじて反応してみせた。
　銃の筒先をロランスに向けた。
　撃つ。だが――当たらない。
　まるで弾が身体をすり抜けたように見える。
　おそらくドルンの目も、見つめていたエステルと同じように驚愕に大きく見開かれていただろう。
　握っていた剣を無造作に振ると、ドルンはわずかなうめき声を発して倒れた。
「なっ！　……いま、何をしたの？」
　エステルだけでなく常にのほほんとしているオリビエさえ驚いていた。
「途中までは、いい展開だったんだけどねぇ。ぼうっと立っているだけに見えた赤い隊長どのが動き始めたらあっさり崩れてしまったね」
「ふーむ……。底の知れん相手だな。あれで本気とも思えんし、いまいち実力が読み切れねえ」
　ジンの言葉にエステルはえっと驚いてしまう。
「あれで、全力じゃないの!?」
「たぶん……違うよ。まだ気の集中が衰えてなかったからね」
　ヨシュアが言った。
「とんでもないわね」
「たしかに。ナイアルさんが何か掴んできてくれているといいんだけど……」

ドルンたちカプア一家の四人は戦いが終わると、兵士たちに厳重に見張られながらふたたび刑を務めるために牢へと戻っていった。空賊とはいえ、エステルには彼らがもうあまり悪い人間には見えなくなっている……。

ともあれ、明日の決勝戦。対戦相手はロランス少尉の率いる特務兵のチームと決まった。

その前にナイアルと会って、彼らについての情報を知っておきたかった。

今夜も酒場に繰り出すというジンとオリビエと別れ、エステルたちはリベール通信社へと向かう。

昨日と同じコーヒーハウスで昨日と同じ格好のナイアルが待っていた。

「よお、勝ったらしいじゃねえか」

「で、何か判った？」

「おかげさまで……」

「さっそく本題かよ。まあ、コーヒーくらい頼めや。んで、資料はこいつだ」

黒い革の表紙で閉じられた書類の束をテーブル上で滑らせてくる。

要約してくれる内容を聞きながら、書類のほうにも目を通した。

「リシャール大佐のほうは聞いているだろうが、生粋のエリートだな。士官学校を首席で卒業した後で、カシウス・ブライト大佐率いる部隊へと入隊している」

「父さんの部隊⁉」

「ああ。十年前の百日戦役じゃ、カシウス大佐の部下として帝国への反抗作戦で多大な功績を残した——って書いてあるだろ。その後は軍の本部スタッフに抜擢されたりして、そこでも実績を積み

上げたらしい。で、一年前に情報部の設立を提案して、初代指揮官に収まったってわけだ」

「ふぇー」

「すごい経歴ですね……」

「充分すぎるくらいだ。愛国者としても知られている男でな。まあ、こんな奴がクーデターを引き起こすなんて常識じゃ考えづらい」

「……そう、ですね」

ヨシュアは何か言いたそうなそぶりを見せたが、そのまま黙って書類を繰る手を再開させた。

（でも、父さんってば、ホントに大佐だったんだ……。そんなに偉かったのになんで辞めちゃったのかしら……）

「で、もうひとり。ロランス・ベルガー少尉のほうだが……」

「あの、ヘンな赤い仮面をかぶったやつね」

「……これだけ、ですか？」

ヨシュアが書類を広げて指で示した。

短い。

「ああ、そんだけだ。ロランス・ベルガー少尉。年齢も不明、国籍も不明。傭兵部隊『ジェスター猟兵団』に所属していた所を、リシャール大佐の招きに応じて情報部の一員となった。それ以前の経歴も不明、だ」

「ちょ、ちょっと待って。なにそれ」

「リベール出身じゃないんですね？」
「しかも、元傭兵で身元不明ってどーゆーことよ？」
「さて、ね。こっちとしてもそいつは疑問なんだが……。まあ、『猟兵団（イェーガー）』ってぇのは最高ランクの傭兵部隊だけに与えられる称号でな」
「戦闘のエキスパートってこと？」
「大佐が引き抜きをかけたということですか？」
「ってことになるな。まあ、傭兵を直属の部下にするってのは珍しい気もするがよ」
　ナイアルが言った。
　傭兵にとって契約は命の次に大事だ。だから一度契約を交わして雇ってしまえば忠誠心は（条件を守って報酬を与えている限り）信用できる。
　それは確かなのだが、情報部というのは軍のなかでも特殊な部隊だ。万が一でも裏切りは許されないところ。暗号の一つでも漏れてしまえば国の弱体化は避けられない。
　そんな部署の、それもトップの懐刀として他国の傭兵を雇うものだろうか？
　よほどの緊密な絆があるのか、あるいは——。
「『ジェスター猟兵団』……どこかで聞いたことがあるような」
　しばらく考えこむような顔つきをしていたヨシュアだったが、やがて諦めたようにファイルを閉じた。
「だめだ。思い出せない」

　ヨシュアが忘れるなんて珍しい、とエステルは思った。そのときはそこに意味があるとは考えなかったのだけど……。
　ナイアルが付け足すように言ってくる。
「で、だ。これは軍とは直接には関係ないんだが。お前ら『クローディア姫』という名前を聞いたことはあるか？」
「たしか、海難事故で亡くなった王太子夫妻の忘れ形見ですね。女王陛下のお孫さんにあたる……」
　そうそう、こういう感じだ。淀みなく答えるヨシュアを見て、エステルは、これがいつも通りのヨシュアだと思う。
「そのお姫さまがどうかしたの？」
「姫殿下の見合い相手をリシャール大佐が探しているらしい。しかも、他国に人を派遣して、だ」
「大佐が⁉」
「……どういうことですか？」
「クローディア姫は血筋だけでいえば直系中の直系だ。その姫殿下を外の国に嫁がせようとしてるってことだな」
「なるほど。その場合、姫殿下を除いて女王陛下にもっとも血筋が近しい人物が誰になるか、ということですね？」
「面白い話だろ？」
　にっとナイアルは笑みを浮かべるのだけど、エステルには彼が何を「面白い」と思っているのか

理解できなかった。ヨシュアはどうやらピンときたようだが……。
「っと、悪ぃな。これからちょいと人に会う用事があってよ」
そう言いながら、ナイアルは椅子から立ち上がった。黒革のファイルを返すと、ナイアルは「明日は負けるんじゃねえぞ」と励ましてくる。そのままエステルたちの分まで勘定を済ませて走っていった。
「さて、と。あたしたちはどうしようか？」
「そうだね……」
「明日のためには、早く休んだほうがいいかも？」
ヨシュアも頷いた。
けれども、自分たちの部屋に戻ったエステルたちは、そのまま休むわけにはいかなくなってしまったのだ。
鍵が掛かっていたはずの部屋のなかには明らかに誰かが訪れた跡が残っていた。
「今夜十時、大聖堂に来られたし」
テーブルの上の一枚の紙にはそう伝言が残されていた。

† † †

七つの色のステンドグラスを通して虹色に染められた穏やかな月の光が祈りの間へと降り注いでくる。
夜間の警ら（パトロール）が思っていた以上に厳しく、見つかれば直ちにホテルまで連れ戻されてしまうとあって、エステルたちが大聖堂へと辿りつくことができたのは指定された時間ギリギリだった。
大扉を引くと、重い手応えとともにゆっくりと扉が開く。
入り口から説教壇まで横長の机と椅子が整然と並ぶ。机の間を縫って緋色の絨毯がまっすぐに敷かれていた。正面にある大きな空の女神像の前に人の影があった。シスターの恰好をしている。
「ふふ。来てくださいましたか」
やはり女性の声だ。どこかで聞き覚えのある声だとエステルは思う。この人が自分たちを呼び出したのだろうか？
「あなたは……」
ヨシュアが何かに気づいたようだ。けれどもエステルにはさっぱり見当がつかない。
警戒しつつ緋色の絨毯を踏んで進む。
藍色の尼僧服を着たシスターは月明かりのなかでエステルたちを見て微笑んだ。その顔を見つめてエステルはようやく思い出したのだ。
「ひょっとして……エルベ周遊道で会ったシスターさん？」
シスターは頷いた。だが——。
エステルには訳が判らない。
魔獣に襲われていたシスターを助けたのはもちろん覚えているけれど、だからといってホテルに

無断侵入されて置き手紙を残される理由には覚えがない。本当にこのシスターがエステルたちを呼び出したのだろうか？

「その節はお世話になりました。残していった私が言うのもなんですが……よく、あんな伝言でここまで来て下さいましたね」

どうやら確かに呼び出した本人らしかった。

（って、このヒト、いったい何者なの!?）

「なるほど……ようやく気づきました。貴女だったんですか」

シスターの顔を見つめていたヨシュアが言った。

「フフ……ヨシュアさんは鋭いですわね」

微笑を浮かべたかと思うとシスターの表情が一変し、きりりと引きしまったものへと変わる。

「では、失礼して……暑苦しい服を脱がせてもらうよ」

口調まで変えて、藍色の上着をするりと脱ぎ捨てる。現れたのは、青い軍服を着た、胸がなければ男性かと見紛う長身痩躯の麗人だった。楚々としたシスターの恰好との差異があまりに大きくてエステルは腰を抜かしてしまいそうだ。

だが男勝りの口調と姿に覚えがある。

エステルの頭のなかで何かが弾けた。

「ああっ！　ルーアンで会った親衛隊のおねえさん！」

「王室親衛隊、独立中隊長、ユリア・シュバルツ中尉だ。久しぶりだな。エステル君、ヨシュア君。

君たちなら、きっと来てくれると信じていたよ」

「な、なんで……ユリアさんがシスターの恰好を!?」

「親衛隊はリシャール大佐によって指名手配されているのですよね……ひょっとして、それで変装を？　では、僕たちをここに呼び出した理由は？」

「ふふ……さすがはヨシュア君。どうやら王都で起きていることも、かなりのことまで気づいているようだね。そう、そのとおりだ。七耀教会とリベール王家とは昔から深い繋がりがあってね。リシャール大佐の陰謀によって追われることになった我々を色々と助けてくれているのだよ。このように服を貸してくれたり、匿ってくれたり……」

「そうだったんだ」

「見事な変装でした」

「あのときは軍の兵士がいたから正体を明かすことはできなくてね。そして、ヨシュア君のもう一つの疑問の答えだが……。君たちを呼んだのは他でもない。明日の決勝で勝利したら城の晩餐会に招待されるだろう。その時に、グランセル城にいる女王陛下と接触して欲しいのだ」

ユリアの申し出にエステルたちは驚いた。それは取りも直さず、エステルたち自身が望んでいたことでもあったからだ。

詳しく話を聞いてみると、どうやら親衛隊と女王陛下とは完全に分断されてしまっており、まったく連絡を取り合うことができていないらしい。女王陛下が病気で静養されているという噂ももちろん知っていた。だが、それが事実かどうかさえ確かめられていないという。

エステルたちはレイストン要塞での件と、ラッセル博士から伝言を預かっている旨をユリアに伝える。自分たちも女王に会うつもりだと。
ユリア中尉はしばし目を閉じ、空の女神の慈悲に感謝の言葉を呟いた。そして改めてエステルたちに陛下との接触を頼み、女官長への紹介状を手渡してくる。その手紙があれば城のなかで便宜を図ってくれるだろうと言う。
確かにエステルたちとしても城中に味方ができるのは有り難い。
「でも、あたしたちが負ける可能性だってあるのよね。もちろん、絶対勝つつもりだけど」
万が一、ということもある。あらゆる事態は想定すべきだろう、とこれは頑張ってヨシュアのように考えてみてのエステルの言葉だ。
「君たちならきっと大丈夫だろう。あの東方の武術家どのも大した腕の持ち主のようだが……なんと言っても君たちはカシウス大佐のお子さんなのだから」
驚いたことにユリア中尉まで父のことを知っていた。それどころか彼女の剣の師匠だという。ユリアに力強く大丈夫だと断言され、エステルの身の内に熱い力が湧き上がってくる。
「全力を尽くします」
ヨシュアも言った。
ユリアと別れ、エステルたちは帰途へとついた。
街中では相変わらず警備兵たちが巡回していたが、帰り道は例え捕まってもホテルに連れ戻されるだけだから幾分か気が楽だ。それでも兵士たちに捕まるのは極力避けたかった。

ホテルの隣にある公園まで辿りついた。
「少し休んでから部屋に戻ろうか」
ヨシュアが言うので、エステルはそのまま近くのベンチへと腰を下ろした。
「あ〜、色々ありすぎて、なんか頭がパニック状態かも……」
さすがにホテルにあった不審な手紙が、エステルたちと接触するために部屋に侵入したユリア中尉の置手紙だとは思わなかった。しかも、そのユリア中尉とは、変装した姿で既にエルベ周遊道で会っていたなんて。
「僕もまさかユリア中尉だとは思わなかったよ」
「でも何か見当はつけてたんでしょ？　ヨシュアのことだし。だから最初はあたしが一緒に行こうとしたときに反対したのよね？」
「……それは…………」
隣に腰かけていたヨシュアが急に黙り込んでしまった。言いたくない、と顔に書いてあった。
「ごめん、今のナシ」
「エステル……」
「あの置手紙の心当たりって、ひょっとしてヨシュアがあたしに出会う前のことと関係あったりする？　する……んだね。うん。ヨシュアが話す気になるまで出会う前のことは聞かない……そう決めたし。でも、ついつい忘れちゃうのよね〜」
ことさら明るくまくし立てる。

「エステル、僕は……僕は、君と旅をしてきて少しは強くなれたと思うんだ……」
「え……？」
　ベンチから立ち上がったヨシュアは空を見上げた。
　月は地平線の下へと沈んでいた。
　導力灯の明かりも届かない公園の片隅。梢の向こうに星が幾つも見えている。
　空を仰ぎ見るヨシュアの顔をベンチに座りながら見上げていた。
「この同じ空の下で生きている様々な人々の、様々な人生……。無数に絡み合う想いの軌跡……。幾つもの空の下の想いの軌跡に触れることで、僕は無くしたものを取り戻せた。そんな気が……してるんだ」
　星明りに照らされるヨシュアの顔がいつもと違って見えた。知っているはずなのに、エステルの知らない顔だ。
「たぶんそれは錯覚なんだ。だけど、それでも僕は……僕は、君と一緒にいられることを感謝したいと思っている。この空と、父さんと……。何よりもエステル、君に」
「ヨシュア……」
「だから――約束する。今回の事件が片づいて父さんも無事に帰ってきたら……君と出会う前のことを話すよ」
「ホ、ホント……？」
「うん。この星空にかけて約束する」

　そう言ったヨシュアの横顔にはどこか吹っ切れたような表情が浮かんでいた。
　仰ぎ見る満天の星空。
　この数多の星にかけてヨシュアが誓うというのなら。
「決めた！」
　エステルはベンチから勢いよく立ち上がる。
「あたしも話す！」
「エステル……？」
「あたしも、全部片づいたらヨシュアに話すことがあるから！」
「え……？　ああ。もしかして、例の悩みのこと？」
　ヨシュアは憶えていてくれたらしい。きっと、ずっと心配してくれていたに違いなかった。エステルは知っている。知らない顔を浮かべていても、ヨシュアの内側にはちゃんとエステルの知っているヨシュアもいるんだってこと。
「うん、明日の試合を負けるわけにはいかないわ。乙女のパワーで、特務兵どもをぶっとばす！」
「ぶっとばすって……」
　振り返ったヨシュアが呆然とした顔をしていた。それから、ぷっと吹きだした。
「アハハハハ……っ！　君って……やっぱり……父さんの娘だなあ……」
「そ、そこまで笑わなくたって……」
　むうと口をへの字に曲げてしまう。

「……僕も、明日の試合、勝てそうな気がしてきたよ」
ひとしきり笑ってからヨシュアが言った。

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



3名様

『も〜っと集まれ！ファルコム学園』缶バッジ

大人気!!　オリジナル缶バッジを5個セットで3名にプレゼント!（※絵柄はランダムです）

ご応募は特設サイトまで▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、（falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.126プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）
2：面白かった記事の番号→
　つまらなかった記事の番号→（記事一覧から１つずつ）
3：アンケート① 夏に訪れてみたい『軌跡』の土地は？
　アンケート② 夏に聴きたいファルコムBGMは？
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

記事一覧

1：黎の軌跡最新情報
2：イースⅨ最新情報
3：も〜っと集まれ！ファルコム学園
4：創の軌跡　THE MISERABLE SINNERS
5：英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～
6：ファルコムニュース
7：暁の軌跡最新情報
8：英雄伝説 空の軌跡

応募締め切り　8月27日（金）

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.126

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 河野崇
デザイン・DTP	株式会社 ACQUA
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（デザインクロッパー）
発行	株式会社フィールドワイ 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/